輝く明日を創り出す

We are the Alchemists

年間事業報告

2018年度 公益社団法人 呉青年会議所

理事長報告

２０１８年度　公益社団法人呉青年会議所
第６６代理事長　　明神　政之

～輝く明日を創り出す～

まちとは、「ひと　と　ひと　との繋がり」そのものである。それは一般的に馴染みのある言葉で表現すると社会と言い換えることも出来、また、青年会議所の普遍的な目的として、明るい豊かな社会の実現が掲げられているが、私はこのどこか温かみを感じるまちという言葉が好きである。まちという言葉にはひとの存在が強く感じられる、ひと　と　ひと　が繋がっている、そのような感覚を持って、私はこれまで青年会議所活動をおこなってきた。

その「ひと　と　ひと　との繋がり」である「まち」こそ、我々青年会議所が変革を起こさなければならない対象である。青年会議所のおこなう「まちづくり」とは、ひとの感情に変化を起こし大きな波を生み出すことであり、それはまさしく社会変革や市民意識改革に他ならないが、根子にあるのはいつの時代もどの場所に於いても「ひと」であることに変わりない。変革や改革はひとの感情に変化が起きることから生まれる。感情はひとからひとへと繋がっていき、やがて大きな波となってまちを、国を、そして世界を変えていく。

だが、その世界を変える感情は平和的なものだけとは限らない。怒りや妬みの感情から生まれた大きな波が社会を変えることもある。自分の考えを一方的に押しつけ相手を従え集団を作り、社会を変えた者もいる。しかしそのような相手のことを思わない変革は、必ず辛く悲しい傷みを伴ってきた。

ひとはひとの笑顔を見ると自分も笑顔になる。ひとは自分以外の誰かを笑顔にすることが出来る。幸せな気持ちになれる。感情の変化から世界を変えることが出来るのならこんなに素晴らしいものを使わない手はない。このまちをより良くしたい、このまちから輝きを創り出したい、そのような思いで、２０１８年度公益社団法人呉青年会議所では、「ひとと　ひと　との繋がり」の中でも特に「親子」と「仲間」に焦点を当て、「力強い呉ＪＣによる親子と仲間の笑顔が輝くまちの創造」という基本方針のもと運動を展開し、事業構築をおこなっていった。

まちの未来そのものである子ども達にとって、親子とは自分が生まれた瞬間に与えられる初めての繋がりであり、仲間とは目的や困難を乗り越えるために自ら初めて獲得する繋がりである。これらは自分だけでなく、相手の幸せのために行動することが出来る最も基本的な、大切な繋がりである。ひとは笑顔になることが出来る素晴らしい生き物であるが、それでも一人では笑顔になることは出来ない。相手のために行動し、繋がりを持つことで共に、初めて笑顔になる。今回の事業を通じ笑顔を知った子ども達は、これから次の世代

に笑顔を伝え、仲間達と共に更に笑顔を創り出していくだろう。親から子へ、世代から世代へと時を超え笑顔が繋がり、仲間から仲間へ、さらに次の仲間へと遠く離れたところにまで笑顔が繋がるとき、世界は変わり、輝きに満ちあふれたものとなっている。

もちろん世界を変えようとする為には、ひとの感情に大きな影響を与える為には、我々呉青年会議所自身が力強いものでなければならないし、まちとの繋がりが強くなければならない。自分の思い、他人から伝えられた感情を自身の内に秘めるだけではなく、体の外に出し行動とする。それを更に他人と共有する。そうすれば感情は繋がっていく。しかし行動とは挑戦に他ならず、とてつもなく恐ろしく、怖いことでもある。そして、それに果敢に立ち向かっていけるのが、強固な繋がりと若さと情熱を持った青年会議所メンバーであると思う。

２０１８年７月、凄まじい豪雨がまちを襲った。この未曾有の大災害は多くのひとを、まちを、繋がりを奪っていった。しかしそこに在っても呉青年会議所メンバーは、誰一人怯むことなく、ぶれることなく、また新たな繋がりを創り出し、「力強い呉ＪＣによる親子と仲間の笑顔が輝くまちの創造」を正に体現していた。事業を計画立案する委員長達にとっては特に大変な一年であったと思う。しかし基本方針を各事業において委員長ら独自の色を以て表現し、それをメンバー全員で実行するのみならず、更にまちの為、ひとの為、災害に力強く立ち向かい笑顔を創り出している彼らを見たとき、私は大変心強く、私自身も笑顔にして頂いた。呉青年会議所が、更に力強く、まちと強固な繋がりを持った団体へと成長していると確信した。

～Ｗｅ　ａｒｅ　ｔｈｅ　Ａｌｃｈｅｍｉｓｔｓ～

私は所信にて、呉青年会議所メンバーは「Ａｌｃｈｅｍｉｓｔ（＝錬金術師）」であると言った。彼らは中世の昔、世界を変えた者達である。では実際に目映い輝きを放つ金を創り出すことの出来なかった錬金術師達は、一体何を以て世界を変えたのか。彼らは仮説を立て、実験、観察し、幾度もの失敗を経験しながらも挑戦を続けていた。解き明かしたい、もっと知りたいという感情が繋がり、遂には真理の一部を解き明かし科学として世界を変えることになった。

青年会議所はひとを創り出すことは出来ない。しかし呉青年会議所の力強い行動、挑戦は、ひと　と　ひと　との感情を繋ぎ合わせ、確かに多くの輝く笑顔を創り出した。それは必ずこのまちの明日を変え、平和な未来へと世界を変えるものである。やがて陽は昇り、輝く明日がやって来る。

Ｗｅ　ａｒｅ　ｔｈｅ　Ａｌｃｈｅｍｉｓｔｓ.

繋がりを頂きました全ての皆様に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

副理事長報告

副理事長　　國久保　純

まちづくりといっても、様々な見方や方法があり時代や地域によっても手法や目的が変わってきます。

本年度、呉青年会議所では、明神理事長のもとスローガン「輝く明日を創り出す　Ｗｅａｒｅ　ｔｈｅ　Ａｌｃｈｅｍｉｓｔｓ」を掲げ活動してきました。青年会議所という団体は単年度制で、毎年役職が入れ替わり、その１年ごとに全く違った活動が行われます。

私は、本年度は副理事長という立場から主にまちづくりの活動を総括させて頂きました。その中でも「親子の繋がり」と「仲間の繋がり」をテーマとし、親子に対する事業、子供達に対して行う事業を行ってまいりました。

親子の繋がり事業では、２つの事業を行い、当日は本当に楽しそうに笑顔で会話する親子で溢れ、親子本来の温かみや親子の繋がりの大切さが改めて伝わってくる事業となりました。この事業は、銭原委員長でしか成し得なかった事業であり、銭原委員長とスタッフ、委員会メンバーの極め細やかな段取り、準備によって事業の開催を無事終える事が出来ました。

仲間の繋がり事業では、８月に２泊３日で体験型事業を行う予定でしたが、大規模豪雨災害により、内容を変更し１１月に１日完結型の事業を行いました。参加して頂いた子供達には全く知らない子供達もたくさんいる中、失敗や成功をしながら仲間と共にミッションに挑んでいく中で、最終的に仲間という存在に気づいてもらえる事業となりました。野津委員長だからこそ、子供達の目線に立って参加できる内容となり、活発な事業となりました。大変な時期の中の開催で、スタッフ、委員会メンバーも本当にお疲れ様でした。

この２本のラインで事業を行いましたが、その中でラインを統括する田中常任理事という存在があり、この人の舵取りがあったからこそ２人の委員長の潜在力を出し切る事が出来たと思います。事業というのは、予算から構成、場所、日程の確保など全てを自分達で考え自分達で決定していかなければなりません。少しでもミスがあれば、大きく内容が変わってきます。田中常任理事の目で丁寧で慎重な精査のお蔭でまちづくり事業を開催する事が出来ました。

最後に、今年は事業に関しても、災害での作業の時に関しても、多くのひとに助けられ、ひとの有難味を改めて実感した年となりました。ひと　と　ひととの繋がりに本当に感謝致します。

副理事長報告

副理事長　　井本　成一

「輝く明日を創り出す　Ｗｅ　ａｒｅ　ｔｈｅ　Ａｌｃｈｅｍｉｓｔｓ」という明神理事長が掲げたスローガンのもと、１年間副理事長を務めさせて頂きました。

私が副理事長として担当したのは、鋼の広報員会で「呉青年会議所とまちの繋がり」というミッションに対し、１年間運動を展開してまいりました。我々がどれだけ有益な運動を展開していたとしても、呉青年会議所という存在も含め呉市民の方々に知られていなければ、それは単なる独りよがりにすぎません。そこで、鋼の広報委員会では我々の熱い想いを呉のまちに伝導させるため、従来から行ってきた事業告知は勿論のこと、それに留まることなく、様々な場面で呉青年会議所という存在を呉市民の方々へ届ける事業を展開しました。

具体的には、ホームページやフェイスブック等における事業報告や事業告知に加え、多世代へ向けた情報発信としてインスタグラムを取り入れたことと、呉青年会議所という名称の知名度を向上させるために広報物事業を実施しました。

インスタグラムにおいては、事業後配信となる事業報告と対照的に、事業当日においてリアルタイム配信を行いました。今年度からの運用開始ですので、フォロアー数はまだ１５９名（２０１８年１２月２２日時点）ですが、今後さらなる呉青年会議所とまちの繋がりに寄与するツールとなることを期待します。

次に、広報物事業においては、２０１８年７月に発生した豪雨災害により、まちが甚大な被害を受け、呉のまちに少しでも笑顔を取り戻したいと考え、多くの呉市民の皆様の笑顔の写真を集め、呉のまちが復興に向かう象徴として、モザイクアートを制作しました。また、モザイクアートの裏面には、撮影協力を頂いた呉市民の皆様に、復興に対する熱いメッセージを書き込んで頂き、本事業を通じ多くの呉市民の皆様に呉青年会議所の存在感を広報できたと考えます。

１年を振り返ると、様々な課題が残った部分もございますが、その課題の発生要因を分析し、翌年度以降へ伝えてゆくことで、継続活動である広報活動は、より好循環な広がりが期待できるとともに、呉青年会議所とまちの繋がりが強固になるものと確信します。

共に奮闘した松村常任理事並びに川本委員長へ感謝の意を表し、報告とさせて頂きます。

副理事長報告

副理事長　　原　晃志

力強い「メンバー　と　メンバー　との繋がり」を錬成すること、力強い呉ＪＣを錬成することに取り組んだ一年でした。

メンバーが呉ＪＣの歴史を振り返り、呉ＪＣに対する誇りを改めて感じること。
メンバーが自主自立の精神を培い、メンバー同士で人間的に繋がり合うこと。
力強い呉ＪＣを錬成するために、呉ＪＣボトムアップ委員会も、Ｆ－１総務委員会も、その英知と勇気と情熱を振り絞りました。
両委員会とも、事業目的を達する上で、それぞれの個性、持ち味を生かして計画立案・設営をすることができました。

各事業結果の詳細は委員長による報告のとおりですが、個々の事業以外にも、両委員会とも非常に帰属意識の高い委員会として活動できたことが大きな意味をもっていると感じています。
「力強い呉ＪＣ」を標榜する本年度において、両委員会自身がまさに「力強い委員会」を体現し、力強い呉ＪＣの基礎固めをしてくれました。
近年入会したメンバーが増えた中で、両委員会の副委員長・幹事達も積極的に参加し、ＪＡＹＣＥＥとして大きく成長しました。
新しい人の芽を確実に伸ばしてくれた両委員長の見えがたい功績が、本年度にとどまらず次年度以降にも大いに花開き、さらに実を結ぶものと思います。

両委員会がその個性を発揮しつつも放縦にならず、正しい方向へ進むことができたのは、井田常任理事の導きなしにはあり得ませんでした。
常に真摯に、自分に厳しく、言うべきことを言い、嫌な役回りもためらわずおこない、陰に日向に動く。
至らぬ私の代わりに、井田常任理事には厳格なＪＡＹＣＥＥの範を示していただきました。
そして、その他の呉ＪＣメンバーからは、両委員会の情熱に応えていただき、それぞれの環境でできるかぎりの賛同と協力をいただきました。

呉ＪＣを、輝く明日を創り出すことのできる団体とするために、力強い「メンバー　とメンバー　との繋がり」を錬成したこの一年、繋がりをいただいたすべての　ひと　に心から感謝を申し上げ、副理事長の報告とさせていただきます。

専務理事報告

専務理事　　住井　雄一

２０１８年度のスローガン「輝く明日を創り出す　Ｗｅ　ａｒｅ　ｔｈｅ　Ａｌｃｈｅｍｉｓｔｓ」のもと、笑顔を絶やさぬ専務理事を心掛け、組織の運営を下支えすると新年のご挨拶でお伝えしました。親子に笑顔を、仲間に笑顔を、そして私たち青年会議所メンバーも笑顔で事業を行うことを目標に計画をしておりました。

しかしながら、西日本を襲った７月の豪雨災害により順風満帆な事業計画の遂行とはいきませんでした。広範囲に及んだ被災地の一つとなってしまった呉市は傷つき、多くのものを失いました。当初予定していた事業は中止とし、くれ災害ボランティアセンターに参画し、私たちが出来る復旧、復興活動を優先して行いました。

そのような状況の中、遠方にも関わらず駆けつけてくれる青年会議所メンバー、支援金という形で私たちの活動を支援してくれる青年会議所メンバー。もちろんメンバー以外の多くのボランティアの協力のおかげで早期の回復へ向けて一丸となることが出来たわけですが、青年会議所という団体がこんなにも頼もしく、力強い団体であったのかと痛感させられました。

そして、災害に見舞われたことでたった１年しかない任期の中、予定者段階から命を懸けて計画した事業を中止もしくは変更に追い込まれた委員長の皆様におかれましては、本来であれば実施日の問題、準備期間の問題から事業を実施するのは大変難しかったと思いますが、担当副理事長、常任理事の力添えもあり、またメンバー一丸となることで全ての事業、目的を達成することができました。皮肉にも災害によってメンバー間のつながりが一段と強くなったと実感しました。

様々な問題が次々と、本当に次々と発生するため、対応に追われるだけであっという間に駆け抜けた１年でした。思えば専務理事の職務は、私一人では全うすることは出来ませんでした。専務理事を経験されたことのある明神理事長の存在が大きいのですが、分からないことがあっても即座に対応していただいた佐々木事務局員、時間を惜しまずどんな時でも理事長、そして私と行動を共にしてくれたセクレタリー、そして誰よりも私のことを支えてくれた白井常務理事。２０１８年度の呉ＪＣ事務局ラインは精鋭の集まりであり、求めたもの以上の成果で応えてくれました。感謝の言葉もございません。

私に関わっていただいた全ての皆様のご協力のおかげで、笑顔で１年を締めくくることができました。この場をお借りして御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

この１年で経験した全ての出来事が、必ずや輝く明日へとつながることと信じております。

常務理事報告

常務理事　　白井　祐哉

２０１８年度は，文字通り激動の一年になりました。

最大の要因は，やはり７月に起こった豪雨災害。呉青年会議所事務方の理事として，ボランティアセンターの運営に関与し，計画していた事業の中止に伴い各種調整を行い，支援金の募集および管理をする等，従来の青年会議所活動とは異なった活動を経験しました。前例のない不慣れな業務に心身をすり減らしましたが，呉の復興のためボランティア活動をされる人々との繋がり，様々なカタチで支援してくれた全国各地青年会議所の仲間たちとの繋がり，そして復旧活動に尽力する呉青年会議所メンバーとの繋がり，まさに「ひとと　ひと　との繋がり」を実感し，その重要性を認識することができる機会となりました。

また，本年は従来からの懸案事項であった公益目的事業変更申請に，原副理事長，三戸セクレタリーとともに取り組みました。

我々は紛れもなく公益に資する事業を行う団体ですが，その事業内容は多岐にわたるため，事業構築において慎重にならざるを得ない場面がありました。法令順守の精神のもと，よりよいかたちへの変更案について広島県の担当者と何度も協議を重ねましたが，残念ながら今年一年での最終的な結論には至りませんでした。

しかし，この過程を経たことにより，呉青年会議所メンバーが公益法人についてより意識するきっかけとなりましたし，なにより私自身の公益法人運営に対する理解が深まりました。今後とも，この経験を呉青年会議所にしっかりとフィードバックしていきたいと思います。

最後に，このような修練の機会を与えてくださった明神理事長，自ら先頭に立ち事務局を引っ張ってくれた住井専務理事，細やかなフォローで事務処理を助けてくれた佐々木事務局員，そして激務の理事長を支え，笑顔の溢れる事務局にしてくれた三戸筆頭をはじめとするセクレタリーの皆さま，本当にありがとうございました。

常任理事報告

常任理事　　田中　孝一

２０１８年度，明神理事長が掲げられたスローガン『輝く明日を創り出す』，基本方針『力強い呉ＪＣによる親子と仲間の笑顔が輝くまちの創造』のもと，國久保副理事長ラインの常任理事を務めさせていただきました。あっという間の１年間でしたが，振り返ってみると，様々なことが昨日のように思い出すことができ，とても素晴らしい経験をさせていただきました。この素晴らしい機会を与えていただいた明神理事長，國久保副理事長に感謝いたします。

まちづくりラインの常任理事として，「ＯＴＥＫ委員会」と「仲間の絆委員会」の２委員会を担当させていただきました。

理事長所信に掲げられた『親子の繋がり』に対し，銭原委員長率いるＯＴＥＫ委員会は，親子リンクコーデという今までにないファッションという手法で温かみのある親と子の繋がりをつくり，有名な絵本「くまのがっこう」作者あいはら先生のトークショーや絵本を通じて，親であることを改めて認識してもらい，より温かみのある親と子の繋がりをつくることができました。

理事長所信に掲げられた『仲間の繋がり』に対し，野津委員長率いる仲間の絆委員会は，小学５，６年生を対象に呉のまちを舞台にＲＰＧ型アクションゲームを行い，子どもたちに仲間の繋がりという大切さを認識してもらい仲間の絆をつくることができました。

両委員長は，自らのフィルターを通しそれぞれの委員長でしかできない事業を行い，親子の笑顔，仲間の笑顔があふれ，ひととひととの繋がりがより素晴らしいものになったと確信しています。

卒業する年にこのような役を受けさせていただいたこと，それを素晴らしい仲間と行うことができたこと，そして素晴らしい笑顔が輝いたこと，呉青年会議所活動にご協力いただいた全てのひととひととの繋がりに感謝し，お礼を申し上げます。１年間ありがとうございました。

常任理事報告

常任理事　　松村　和樹

２０１８年度、私は明神理事長の掲げたスローガン「輝く明日を創り出す　Ｗｅ　ａｒｅ　ｔｈｅ　Ａｌｃｈｅｍｉｓｔｓ」のもと、常任理事と拡大アカデミー特別会議の議長補佐として青年会議所活動をさせていただきました。

常任理事の職では鋼の広報委員会を担当し、「呉青年会議所とまちの繋がり」を築き上げるべく活動してまいりました。呉青年会議所の広報活動に携わって３年目になります。広報委員会には、毎年継続されるやるべき事業と、その年の委員会の特色を出した広報事業があります。本年度の特色として、広報活動はまず身近な所からという理念のもと行われた、家族会員交流がありました。先般の豪雨災害により一度は中止になりましたが、何とか年内に事業を行うことができ、会員家族にも我々の活動をご理解いただけました。もう一つの広報物事業では、何度も何度も会議を重ねました。今まで私の青年会議所活動の中でも一番多い会議を経て事業が行われました。その結果が呉市役所とれんがどおりに掲載予定の１０００人を超える市民の笑顔で作り上げたモザイクアートです。是非ご覧ください。

拡大アカデミー特別会議では井本議長の補佐として、会員拡大そして仮入会員育成に携わりました。会員拡大は呉青年会議所の生命線です。一人でも多くの呉青年会議所に必要な人材を集める為たくさんの人と面談をさせていただきました。面談で呉青年会議所の説明をする度に何の為に活動するのか、活動したらどうなるのか、入会してから今までそれらはどう自分の中で変化してきたか。そんな事を自問自答するようになり、改めて自分自身を見つめなおす機会にもなりました。最終的に１０名の新入会員に呉青年会議所に正式入会いただきましたが、仮入会員育成と言っても特別会議からはほんの少しのきっかけを与えたに過ぎませんでした。あとは自ら同期の絆を深め困難に立ち向かう姿を見て来年度から一緒に活動する事が頼もしく思えました。

常任理事と議長補佐、立ち位置の違う二つの役職の打診を受けた時一瞬躊躇もありましたが、受けてみれば一瞬の出来事であったように思います。その一瞬であるが、とても貴重な経験のできた役職に誘っていただいた井本副理事長ありがとうございました。また、本年度、事業に参加頂いた市民の皆様。鋼の広報委員会、拡大アカデミー特別会議の皆様、そして私の活動を支えてくれた家族に謝意を表して常任理事報告とさせていただきます。

常任理事報告

常任理事　　井田　大敬

２０１８年度では呉ＪＣボトムアップ委員会とＦ－１総務委員会の指導的立場である常任理事として、これまでのＪＣでの経験を基に、ともに事業の立案から計画まで行い、時には叱咤激励もしてきました。

さて、前述の委員会について端的に説明すると、呉ＪＣボトムアップ委員会では、組織の底上げを行いました。具体的には事業やＪＣ活動に対するメンバーの意識を高めていくにはどのようにしていけばよいか１年間考え、最後の事業である呉ＪＣボトムアップ事業②では１００％に近い参加率で何かしら事業への参加を達成いたしました。Ｆ－１総務委員会では、決してすべての例会が円滑に進んだとは言えないが、委員長の持ち味を十分に発揮した例会運営を行いました。また、例会運営だけではなく、呉ＪＣの規格や規律（ｆｏｒｍｕｌａ）の見直しも行いました。所作を覚えなおすことで呉ＪＣへの所属意識を高めることができました。詳細については委員長の事業報告をご覧になっていただきたいと思います。

では、常任理事として自らを顧みると、自己研鑽に繋がる一年でした。組織内の委員会を担当した点もあるが、組織の中間的な立場として責任ある行動を取りながら両委員会には的確な指導を行わなければならない。果たしてそれができたと言えるか、結果としては、自分の思い描いていた通りにはいかなかったと思います。指導力が足りなかったのではないか、言葉が足りずうまく伝わらなかったのではないか、厳しく伝えたはずの言葉が伝わらなかったのではないか、上げればきりがないが、もっと深く関わることができていればと思いました。

２０１８年は西日本豪雨災害により呉地域も大きな被害を受けました。復旧、復興においても多くのメンバーが参加し、呉ＪＣの事業運営においても支障をきたすことも多い中、最後までやり遂げていただいた藤本委員長・新谷委員長、委員会スタッフメンバーに感謝を示します。そして両委員会が１年間行ったことが呉ＪＣの輝く明日を創り出したことを確信して常任理事の結びとさせていただきます。

委員長報告

ＯＴＥＫ委員会
委員長　　銭原　亨

〔スローガン〕親子が繋がり笑顔が輝くまち呉

親が子と向き合うことで自然と生まれる笑顔。そんな温かみのある「親子の繋がり」でいっぱいの呉のまちを目指して１年間活動を行って参りました。

数十万人が来場する呉みなと祭にて、近年ＳＮＳ等で流行する「親子リンクコーデ」というお揃いファッションでの参加を呼びかけ、当日まで各家庭内でリンクコーデを話題にコミュニケーションをとって頂きました。参加して頂いた保護者と子ども６２３名には記念撮影を行い、リンクコーデした呉みなと祭の思い出を残し、温かみのある「親子の繋がり」をつくる事が出来ました。

秋祭りシーズンに大和ミュージアム裏の大和波止場において、保護者と子ども３９６名が参加する中「おやこではぐくむみらい絵本」を開催しました。前半では、人気絵本「くまのがっこう」をゲストに迎え、作者のあいはらひろゆき氏のトークショーにより、親に親であることを改めて認識して貰う事が出来ました。後半のみらい絵本づくりでは、みらい絵本シナリオに沿って、子どもと絵本に焦点を当てたアトラクションを一緒に体験して頂きながら記念撮影を行いました。また、家庭で当日の思い出と未来に繋がる家族の約束で構成したオリジナルのみらい絵本を作って頂く事で完成し、より温かみのある「親子の繋がり」をつくることが出来ました。

この１年間の活動を通じて溢れんばかりの目映い笑顔を見させて頂きました。

受けた愛情の恩返しをするのはもとより、我が子にも同じように引継ぎ、それは時代が変われども繰り返すべきだと考えます。この基本方針に沿って私ならではの事業計画を立てるのには苦戦しましたが、我が事以上に支えて下さった上司とスタッフのお陰で、上記の事業とそれをやり遂げる委員会運営をさせて頂く事が出来ました。私ひとりでは成しえなかったこの経験を糧に、活動中に授かった初の我が子と、笑顔溢れる家庭を築いてゆこうと思います。大変充実した一年間を有難うございました。

事業報告

１．事業名：４月担当例会

日　時：２０１８年4月２日（月）２０：１５～２０：５０

場　所：クレイトンベイホテル３Ｆ　天の間

事業概要（方法）：親子の笑顔が輝くまち創造事業の開催に先立ち、

①寸劇により「親子リンクコーデ」を行った親子がどう変化していくのかをセリフに落とし込み、メンバーと「親子リンクコーデ」の具体的な効果について共有した。

②プレゼンテーションにより「リンクコーデ」という手法が親子間の新しいコニュニケーションツールになるということ、ファッションは親子が楽しみながらコミュニケーションが取れるという事をメンバーに説明した。

③プレゼンテーションにより事業当日のメンバーの役割について委員会毎の担当を分けて説明した。

④委員会メンバーの家族の笑顔の写真をスライドショー形式にした動画を見て貰い、事業後の参加者のイメージをメンバーと共有した。

検証方法と効果：親子の笑顔の輝くまち創造事業は、日曜日開催であるにもかかわらず、仮入会員を含む８１名のメンバー中、５９名の参加がある中で行うことが出来た。メンバーのヒアリングからも、事業内容が明確であった等、理解が得られたことが要因であると考える。特に仮入会員にとっては初の例会であるので、インパクトがありエンターテイメント性のある構成に努めた事は、例年消極的になりがちな仮入会員の参加意識を刺激する事に繋がった。

２．事業名：親子の笑顔が輝くまち創造事業『親子☺リンクコーデ in 呉みなと祭～お揃いファッションでとっておきの思い出をつくろう！！ついでにカープ公式戦チケットも当てちゃおう！！～』

日　時：２０１８年4月２９日（日）１０：００～１５：００

場　所：呉みなと祭会場
呉市役所正面玄関前
呉市役所１階多目的広場

協力団体　：町本絵里氏・ポージングコーチ
勝さやか氏・ＭＣ
木下省吾氏・カメラマン
高橋よしかつ氏ほか２名・音響
矢地繊維工業株式会社・協賛：サテンリボン提供

事業概要（方法）：第６１回呉みなと祭において、呉市役所正面玄関前及び呉市役所１階多目的広場をお借りし、リンクコーデで来場された保護者と子どもを対象に①家族毎の記念撮影を行った。②また、アカデミー賞を模したレッドカーペット上でのウォーキング体験とプロによるインタビュー・ポーズ指導・写真撮影を体験して頂いた。撮影した写真が確認出来るよう、掲載するＴｕｍｂｌｒ特設ページのＵＲＬとＱＲコードを記載したアクセスカードをお渡しした。①の後に行ったアンケートをもとに抽選を行い、当選者３０名の家族には、２０１８年８月２３日（木）マツダスタジアムにて開催されたカープ対ヤクルト戦の公式観戦チケットを進呈した。

リンクコーデでの参加が告知できるよう、呉市内の役所及び支所等施設、小学校、保育園、幼稚園、認定こども園、大型商業施設、コンビニエンスストア、飲食店にお願いしポスター掲示をして頂いた。また、２０１８年４月１７日（火）に二河球場にて開催されたカープ公式戦会場等でキャラバンを行い、広報活動をした。

①では、撮影用の小道具としてオリジナルのインスタグラムボードとフォトプロップスを作成し、使用して頂いた。また、背景として正面玄関前にはサテンリボンのカーテンを用意し、多目的広場には装飾パネルを用意した。

②は正面玄関前にてプロのポージングコーチ兼ＭＣとして、元ミスユニバース日本代表の町本絵里氏、インタビュアー兼ＭＣとして勝さやか氏、カメラマンとして木下省吾氏に担当して頂いた。メンバーは法被を着用し、外部協力者も含めてピンクのリンクコーデで運営にあたった。

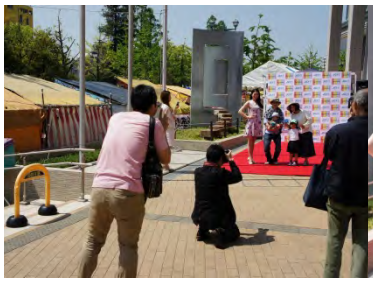
検証方法と効果：アンケート及び撮影した写真の評価によって行った。事業当日は偶

然リンクコーデで呉みなと祭に来場された方に対してもスカウトにより参加をして頂いたが、準備期間の振り返りを尋ねたアンケート回答によると、「会話が増えた。」「一緒に行動する事が増えた。」「子どもの考えを聞くようになった。」「共通の話題で一体感が持てた」等、全参加者のうち７３％が家庭内で何らかのコミュニケーションが生まれたと判断できる回答をされた。また、９５％の参加者がリンクコーデを楽しめたと回答された。実際に会場は多くの笑顔で溢れており、撮影した写真を見てもその様子は顕著であった。ファッションを話題にするのは、親子で隔てなくコミュニケーションを取るのに有効に作用する事が分かった。

アンケート回答による気づきとして、多くの保護者は、子どもと思い出づくりや共通体験をしたいというニーズを持っており、身近でそのような体験をする機会があまりない事が分かった。

後日招待したカープ公式戦は、偶然にもシーズンベストと言える名試合となり、当選したご家族にはとっておきの思い出を作ることが出来た。

本事業後の他団体の動きとして、呉市内のとある幼稚園では、夏祭りの企画として、本事業を参考に作成したインスタグラムボードや装飾パネルを使用した親子の記念撮影会を実施したという報告を受けた。



３．事業名：８月担当例会

日　時：２０１８年8月６日（月）１９：５０～２０：５０

場　所：クレイトンベイホテル

事業概要（方法）：親子の繋がり育成事業の開催に先立ち、

①登壇者本人の体験談を交えながら、親が子に行う教育はそれぞれに形が異なっており、親子の繋がりもまたそれぞれであるという事を話し、メンバーに当委員会の掲げる親子の繋がり育成事業の事業目的について考えさせる内容のものとした。

②プレゼンテーションにより親子の繋がり育成事業の具体的な方法と内容についての説明をした。

③委員会メンバーが事前に行った「みらい絵本づくり」の動画を挟みながら、寸劇にて事業の効果について説明した。

④親子の繋がり育成事業でのメンバーの役割について、プレゼンテーションにより説明した。要所で「みらい絵本づくり」内で行うダンボールハウスやスイングカーの演出を挟んだ。

⑤委員会メンバーが各委員会テーブルに配置し、「みらい絵本づくり」中に各委員会に担当して貰うブースについて説明する委員会タイムを行い、④の補填を行った。各テーブルで説明する資料を絵本のように細工をして使用した。

検証方法と効果：メンバーのヒアリング結果によると、委員会メンバーの個性が生かされた構成の良い例会だったという評価を多く頂き、事業内容について深い理解が得られたと考えられる。準備期間が限られる中、実際に事業のプレを行ったものを見て頂く事で、事業では委員会毎異なる担当を受け持って頂く設定であったが、４００名弱の参加者がある中スムーズに進行することが出来た。

４．事業名：親子の繋がり育成事業「おやこではぐくむみらい絵本」

日　時：２０１８年１０月１４日（日）１０：００～１６：００

場　所：大和ミュージアム裏芝生広場・レンガ広場

大和波止場

大和ミュージアム４階市民ギャラリー（託児会場）・会議室（講師控室）

協力団体　：あいはらひろゆき氏・トークショー

株式会社キャラ研　黒木博氏・絵本寄贈

品田セシル・トークショーＭＣ兼歌のお姉さん

株式会社ベイシカ　中尾恭太氏、中元寺 隆夢氏、ほか１名・くまのがっこうステージ等運営スタッフ

高橋義勝氏ほか１名・音響

己斐製氷株式会社　池田誠氏・氷漬け絵本制作

株式会社ＮＥＸＴ　ＢＬＯＯＭ　保育士６名・託児サービス

シーサイドカフェビーコン　谷本氏ほか２名・昼食販売

朗読研究会つばき　読み聞かせボランティア５名・絵本の読み聞かせ

広島国際大学　心理学部　准教授　鈴木佳奈氏・読み聞かせ絵本の選定

事業概要（方法）：停泊する艦艇と多島美を一望出来る海を背景とした大和波止場にて、①親に親であることを改めて認識して貰う事を目的とし、人気絵本「くまのがっこう」の作者あいはらひろゆき氏により「父親として出来る絵本の読み聞かせ」「夫婦共働き家庭での父親としての役割」等をテーマとしたトークショーを質疑応答を織り交ぜながら行った。トークショー後に「くまのがっこう」のヒロインであるジャッキーと歌のお姉さんによる観客一体型のミニコンサート

を行い、一緒に参加した子どもにも楽しんで頂いた。フィナーレでは、「くまのがっこう」の版権をもつ株式会社キャラ研の黒木博氏から呉市中央図書館への絵本の贈呈式が行われた。

②完成イメージをイラストと文で絵本状に構成したみらい絵本シナリオに沿って、白紙の絵本から家族でたったひとつの「みらい絵本」の制作体験をして頂いた。シナリオでは「かぞくのかお」を表紙に、当日体験できる「氷の世界」「親子ヨミニケーション」「ダンボールストリートグラフィティ」「スイングカー」「ジャッキーと記念撮影」の５場面は、親子の笑顔が輝くまち創造事業での気づきを踏まえ、親子の共通体験と思い出づくりに焦点を定め選定した。当日の体験中の様子を写真撮影し、「かぞくのやくそく」「子どもへの誓い」の２場面とともに、みらい絵本を家庭に帰って家族で完成させる内容とした。当日実施した全てを体験した参加者に対しては、あいはらひろゆき氏からみらい絵本へのサインを行って頂く事で、体験を促した。

検証方法と効果：参加した保護者を対象に行ったアンケートと、みらい絵本と一緒に家族の記念撮影をした写真の評価により行った。

①の評価としてアンケート結果によると、参加された過半数の保護者が、以前までと比較して子どもに関わることに肯定的な意識の変化があったと推測できる。

事業全体の評価としては、アンケートの自由感想欄に多数の喜びの声があり、メンバーからも笑顔に溢れていた等、その様子を表現した多数の感想を頂いた。実際の事業風景を振り返ってもその場に居た１人が到底把握しきれないほど、会場には楽しそうにしている沢山の親子の姿があり、笑顔に溢れていた。本事業が参加された家族にとっては、より温かみのある親子の繋がりが育まれていくきっかけになった手応えを感じた。

みらい絵本づくりは、幼い子どもの創作意欲を刺激しながら、子どもとの共通体験と思い出づくりがしたい親の欲求を満たし、同時に４００名弱をフォローする事の出来る、単なるワークショップに留まらないフェスティバル規模の絵本づくりを実現した。

特にキャラクターの人気と知名度が高い「くまのがっこう」は、動員に対して非常に効果的であった。

委員長報告

仲間の絆委員会
委員長　　野津　大輔

〔スローガン〕仲間と分かち合う笑顔　～Ｌｉｎｋ　ｆｏｒ　ｙｏｕ～

今年度、呉青年会議所が掲げていた「ひと　と　ひと　との繋がり」、これは一人ではつくることができず、他者と交わることで生み出されるものです。その中でも当委員会は委員会名にもある通り「仲間の絆」をテーマに掲げ、１年間活動してまいりました。

「仲間」という繋がりは誰でも知っているものですが、当委員会はこの「仲間の絆」をお互いが素直にありがとうと言い合える関係とし、子ども達に感謝することで仲間の繋がりを築くことができ、そしてその仲間の繋がりを通じて笑顔になってもらおうと考えました。

実際に１１月に呉市近郊の小学校５、６年生５０名を集めて、ＲＰＧ型リアルアクションゲームを行いました。５人１組で呉市のまちを舞台にストーリー仕立ての謎解きゲームを行い、道中で仲間と様々なアトラクションに挑み、その成否によってアイテムを集め、最終的に全員で３０名近くの大人たちに挑むというものでした。

最初は初対面でなかなかコミュニケーションが取れないグループも、アトラクションを行っていくにつれて打ち解け、成功や失敗のある中で、お互いに励まし合い、協力して挑む様子を見る度に、しっかりと仲間というものを伝えることができていると実感することができました。そして、助けてもらったら「ありがとう」、悪かった時は「ごめんなさい」と言えるようになっていました。何より全員で挑み、達成感を共有した時に全員がとてもいい笑顔になっており、事業を通じて仲間の大切さを認識してもらえたものと確信しています。

災害直後のまちは甚大な被害を受けており、場所や時間の限られた中での事業とはなりましたが、素晴らしい仲間たちと、上司のおかげで事業を行うことができ、参加してくれた子ども達に笑顔になってもらうことができました。

この事業を通じて仲間の大切さを認識してくれた子ども達が、この呉のまちに仲間の絆を広がっていき、このまちに笑顔が溢れることを確信しています。

１年間の活動を通して多くの学びを得ることができましたが、たくさんの困難がある中で事業実施のために協力いただいた仲間たちに、本当にありがとうございました。

事業報告

１．事業名：４月担当例会

日　時：２０１８年4月２日（月）１９：５０～２０：１５

場　所：クレイトンベイホテル３Ｆ　天の間

事業概要（方法）：仲間の絆委員会が考えている現代の子どもが抱えている問題点と、それに対して委員会が掲げた基本方針と目的の説明をメンバーに向けてプレゼンテーションを行った。

①現代の子ども達が抱えている問題点、「時間」「空間」「仲間」の３間の減少をメンバーに説明し、何を解決するために事業に臨むかをメンバーに理解してもらった。

②その問題点に対し、当委員会が「仲間の絆」をテーマに掲げて事業を展開し、対象となる子ども達に「仲間の絆をつくる」ことを伝えたいことを説明した。

③一人ではできないことが仲間となら達成できるということを、１人や２人では取れない高いところにあるものを４人で協力して取るという寸劇で行い、具体的なイメージを持ってもらった。

検証方法と効果：メンバーにヒアリングを行い、その意見を基に効果を判断した。

この例会を基に事業を構築したが、最初に行う予定であった事業は豪雨災害により、中止となってしまった。そのため、実際に事業を行うまでにかなりの時間が空いてしまったが、例会の時にしっかりとメンバーに事業の概要が周知できていたため、事業を円滑に行うことができた。

２．事業名：７月担当例会

日　時：２０１８年7月２日（月）１９：５０～２０：５０

場　所：クレイトンベイホテル３Ｆ　天の間

事業概要（方法）：８月に予定されていた、みんなで築く笑顔のまち事業が円滑に行われるように、メンバーにプレゼンテーションを行った

①事業の一連の流れを説明し、事業の概要を理解してもらい、メンバーが参加する際にどのような想定をしてもらうかをイメージしてもらった。

②事業で行う謎解きゲームをメンバーに行ってもらい、メンバーの役割以外の場所で何が行われているかを理解してもらい、事業への参加意欲を高めてもらった。

③参加した子ども達が事業を通じてどのようにして仲間をつくり、その経験が今後の生活でどのように活かされるか、実際の体験談を交えて伝えた。

④事業を行う上でメンバーがどう携わり、どのような対応をするかを実演しながら説明した。

⑤事業を通じて参加者に伝えたいことを説明し、メンバーに協力の要請をした。

検証方法と効果：メンバーにヒアリングを行い、その意見を基に効果を判断した。

メンバーからは内容が面白く、かつ分かりやすかったという声が多くあり、こちらの思いはしっかりと伝わったと感じた。ただ、実際にその事業を行うことはなかったため、大変残念であった。

しかし、代替えで行った事業についてはメンバーの多くの協力が得られ、また、事業についての具体的なプレゼンを行う機会がなかったにも関わらず、円滑に運営してもらうことができた。

３．事業名：みんなで築く笑顔のまち事業②

安芸の国の戦い２０１８　ｉｎ　呉

～飛ばす！操る！戦う！謎を解く！仲間と挑むリアルアクションゲーム～

日　時：２０１８年１１月１８日（日）１０：００～１６：３０

場　所：呉市中央公園、呉市スポーツ会館アリーナ、呉市二河多目的グラウンド、呉市二河屋内練習場、古川公園、浜田公園、信樂寺

協力団体：中島　健一郎氏（広島大学准教授）

小川　博道氏　他２名（広島工業大学　情報推進室）

事業概要（方法）：呉市役所周辺において小学校５、６年生を対象にＲＰＧ型のリアルアクションゲームを行った。

①グループ分け　５名を１グループとし、１０グループを形成した。男女それぞれ２名以上となるように別々にくじ引きにて行った。また、各グループには２名のメンバーをグループリーダーとして配置した。

②謎解き　グループの目的地は謎解きにてわかるようにし、行った先でアトラクションを行い、その後新しい謎を渡して計４か所を周るようにした。それぞれ導線が被らないようにグループ毎に渡す謎を変えて行った。

③宝探し　古河公園にて実施、公園内に隠されたカラーボールを５つのヒントを元に探し出すというもの、見つけた数だけアイテムを渡した。

④お絵描き伝言ゲーム　信樂寺にて実施、グループ内の１人が渡されたお題を絵に描き、他のメンバーでそのお題を話し合って当てるというもの、答えられた数だけアイテムを渡した。

⑤ペットボトルロケット　呉市二河多目的グラウンドにて実施、ペットボトルロケットの原理について説明を聞いた後、実際に飛ばして５０ｍ先の円の中に入れる的当てを行った。円に入った数だけアイテムを渡した。

⑥ドローン　呉市二河スポーツ会館アリーナで実施、ドローンを操作し、搭載されたカメラで、見えない場所に書かれた文字を読み、暗号を解くというもの、最後に「みんなで笑顔の写真を撮る」ことでアイテムを渡した。

⑦合戦　上記の③～⑥を行い、それぞれで得たアイテムを装備し、段ボール甲冑を着て大人３０名が守る陣地に攻め込む、肩に「命の玉」を装着し、スポンジ剣で落とし合う、命の玉が落とされたら牢に入れられ、仲間が復活の護符を使えば戦場に復帰できるというルールで行った、一戦目は必ず大人が勝利し、二戦目でしっかりと作戦を練ってその困難を乗り越えることで仲間の大切さを認識してもらうようにした。

検証方法と効果：

①参加した子ども達にアンケートを行った

②設営メンバーにヒアリングを行った

③グループリーダーにヒアリングを行った

①の結果の目的として、「お互いに素直にありがとうと言い合える関係」を築くことを目的としていたが、ほとんどの子ども達がありがとうと言えていた。また、また同じようなイベントがあったら参加したいかという問いには１００％の割合で「はい」と答えており、楽しんでもらえたことが伺える。実際に子ども達の写真を見返すと笑顔で映っているものが多く、また、初対面の子ども達でもしっかりとコミュニケーションが取れていた。

②のヒアリング結果では、各アトラクションでしっかりと子ども達に協力してもらうように促し、実際助け合う場面もみることができたとの回答が得られた、また、合戦に参加したメンバーからは大人でも楽しめたという声が多くあり、大人も子どもも仲間の絆を感じることができた。

③からは、より子ども達に近い立場で事業に参加してもらったメンバーの回答を集めた、最初は打ち解けなかった子ども達も、アトラクションや謎解きを行うことですぐに仲良くなっていたという回答が得られ、また、最後にはしっかりと「ありがとう」と言えていたという意見が多く、仲間の絆をつくってもらえたと感じることができた。

委員長報告

鋼の広報委員会
委員長　　川本　昌生

〔スローガン〕「熱伝導」

広報委員会の委員長として一年活動してきましたが、広報活動の難しさ、重要さを改めて痛感させてられた１年でした。

呉青年会議所自体の広報、対外事業の告知や募集活動、身近な家族に対しての理解推進について１年通して活動を続けて来ましたが、広報活動は常に発信をしていかなければならないので年初からホームページの更新、ＳＮＳでの発信を行い少しでも我々の活動内容を理解して貰える様に、読みやすく分かりやすい文章にする、参加者が楽しんでいるような写真を掲載するなど、記事の内容を考慮しました。

今までの広報活動とは別に、この時代にあった広報活動とは何なのか、受け取る人が何を求めているのかを模索し、今年度はインスタグラムに挑戦し新たな世代に対して広報活動を行いました。また、多くの呉市民の協力を得て、呉が笑顔で溢れるまちになる様願いを込めてモザイクアートを作成しました。笑顔の写真を集め、その集めた写真で呉のまちが更に元気になる作品を目指しました。

そして、一番身近な家族に対して、我々の活動内容を知ってもらい理解を得る為に交流事業を行いました。我々が普段活動出来ているのは家族の協力があって出来ており、今後もより良い活動を行う上で重要な事だと感じました。

広報活動とは、発信を行うだけではなく、常に受け取り側が居て、その人たちと硬く繋がりを作らねばなりません。そのためには「継続は力なり」の言葉どおり、今後も情報を受け取る側が理解しやすい内容で、広報活動を続けていかなければならないと考えます。

２０１８年度は、本当に多くの市民の皆さま、関係者の皆様、呉青年会議所会員、特別会員の皆さまにお世話になり、心よりお礼申し上げます。広報活動は継続して続けていかなければなりませんので、２０１９年度以降もよろしくお願い致します。

本年度は大変貴重な経験、そして皆様との繋がりの中で事業を行う事ができ感謝の１年間でした。

事業報告

１．事業名：総合広報ツール更新、管理事業

日　時：２０１８年度年間を通して

場　所：適宜選定する

協力団体：なし

事業概要（方法）：事業計画書及び、会員手帳を含む総合広報ツールとして、２０１８年度（公社）呉青年会議所のホームページを２０１７年度版から更新を行った。

①ホームページの関して

現在使用しているホームページを一部更新し､より使いやすく次年度以降に引継ぎしやすい形にした。

②会員手帳に関して

手帳に関しては２０１７年度同様、ホームページのコンテンツとしても盛り込んだ。

会員パスワードはシールに印刷し、現役会員と特別会員、特別名誉会員の会員手帳に張り付けた。

名簿に関してはデジタルデータだけでなく、冊子として特別会員と現役会員、ＪＣの関係各所に配布した。

③事業計画書に関して

関係諸団体には手交、または郵送する。ホームページへの掲載も行い、閲覧は自由とした。

検証方法と効果：ホームページのアクセス数より検証する。

ホームページでの情報提供により、迅速に呉ＪＣの事業の告知ができた。事業直前の告知ではｆａｃｅｂｏｏｋ及びＴｗｉｔｔｅｒを連動させることで、参加者動員にも大いに役立った。

また新たにインスタグラムを使うことで、事業をしている最中の画像を掲載でき、ハッシュタグを駆使して、情報抽出のやりやすい環境作りを構築できた。

２．事業名：事業広報事業

日　時：２０１８年度年間を通して

協力団体：なし

事業概要（方法）：各種メディア、各種団体窓口の連絡調整役を務め事業広報計画書を用いて各委員会事業の中身をよく理解し、各委員会と協力して広報を担当した。

告知する書類・チラシを広報希望する委員会からペーパー及びデジタルデータ（ＰＤＦ形式）で受け取り、チラシ・ポスターの配布を協力して行った。また、メディアに対して広報を行う際は、当委員会が窓口となり打ち合わせに同行した。さらに、各委員会からホームページ、ｆａｃｅｂｏｏｋ、での事業の告知や募集活動の要請があった際は、事業担当委員会に原稿を貰い、当委員会が校正を行い投稿した。

今年度から新たなツールとしてインスタグラムを活用し、事業をリアルタイムに広報し新たなニーズに対して広報活動を試みた。

検証方法と効果：メンバーへのヒアリング

「広報との連携がなかなか上手く行かなかった」「委員会が違うので、もっと協議をするべきだと感じた」などの意見もあり、他委員会との連携はスケジュール調整などもあ

り難しく、お互いのスケジュールを共有し協力する事が大切だと感じた。

３．事業名：２月担当例会

日　時：２０１８年2月５日（月）２０：１０～２０：３０

協力団体：なし

事業概要（方法）：当委員会の年間事業計画と活動内容をプレゼンテーションした。具体的には、まずは、広報のあり方を検証し「効率的な広報とは」というテーマから呉青年会議所の６６年間、呉のまちに活力を与える事業をどれだけ行ってきたかを説明し、そのことを知ってもらうための広報ツールやターゲット絞り込みへの重要性を説明した。次に、広報委員会は各委員会の連携の構築をすすめていき、呉青年会議所をより広く多くの人に知ってもらう事を軸とし、Ｆａｃｅｂｏｏｋとインスタグラムに活用した今後の広報活動について説明を行った。最後に、充実した広報活動が呉青年会議所に興味を持ってもらうための一助となり、会員拡大にも繋がっていくことで、呉のまちに我々呉青年会議所の情熱をただ伝えるだけでなく、鍛え上げられた「鋼」のごとく強固な架橋となり、途切れることなく熱伝導させていくことを説明した。

呉青年会議所がどのくらい呉のまちに浸透しているのか、事前にアンケートを取り、呉青年会議所の認知度がどの程度かグラフを用いて説明した。

また、今年度インスタグラムをどの様に掲載していくか、メンバーへのアプリの登録とフォローの協力依頼をし、掲載体制を整える事が出来た。

検証方法と効果：メンバーへのヒアリング

「説明が分かりやすかった。」「委員会メンバーがそれぞれの役割をしっかりと果たしていた。」「委員長挨拶で、委員会の方針や方法が分かりやすく伝わってきて良かった。などの意見をもらった」などの意見をもらえた。この例会を通じて、メンバーに年間事業計画を周知することが出来、今年度の広報活動の仕方や、所信に対する思いを伝える事が出来た。

４．事業名：呉青年会議所広報物事業

日　時：①２０１８年１１月０４日（日）１０：００～１５：００

②２０１８年１２月１５日（土）～２０１９年1月１５日（火）

協力団体：海上自衛隊呉地方隊・広島ブロック内各地会員会議所・至心幼稚園・至心保育所

事業概要（方法）：モザイクアートを作成し呉青年会議所の名前を浸透させる事を目的として事業を計画したが、呉のまちが災害後に更に元気で笑顔の溢れるまちになる様にモザイクアートを作成した。写真集めでは食の祭典において、呉市民の方々に協力をして頂き、また、海上自衛隊呉地方隊・広島ブロック内各地会員会議所・至心幼稚園・至心保育所などの多くの団体に写真撮影を協力してもらい、写真を１０００枚集める事が出来た。集めた写真をモザイクアート用に編集し、呉青年会議所メンバーで貼り付け作業を行い完成させ、呉市役所１階の多目的ホールに展示した。またモザイクアートのメイキングムービーを作成し、ｙｏｕｔｕｂｅ並びにＳＮＳで発信した。

検証方法と効果：呉市民の方々にアンケートを実施した。

多くの方の協力を得られる事も出来、事業に携わってくれた方に『呉青年会議所』の名前をアピールする事が出来た。またモザイクアートの展示後、多くの方が足を止めて見てもらえ、見ている方々も笑顔で楽しんでいる姿から、呉のまちが明るく元気になると確信する事が出来た。また、写真を集める際に、多くの方に出逢い協力をしてもらえた事が最大の広報活動にもなり多くの人に、呉青年会議所の名前を知ってもらうきっかけになったと感じた。

５．事業名：５月担当例会

日　時：２０１８年5月７日（月）１９：５０～２０：５０

協力団体：なし

事業概要（方法）：呉青年会議所の認知度や、問題点を当委員会メンバーでプレゼンテーションした。

まず、呉青年会議所がまちに浸透していない、という現状を、寸劇と委員会独自で集計したアンケート結果を用いて、把握・再認識した。テレビ中継の寸劇を用いた広報の問題提起の場面では、「家族からの理解を得ることがなかなか難しい」、ポスター掲示を依頼した経験から「行政よりも、民間の方が呉青年会議所を知っていない」とのお話があり、広報の奥深さや難しさを窺うことができた。

これらを踏まえて鋼の広報委員会はＡＩＤＭＡ（アイドマ）の法則とＡＩＳＡＳ（アイサス）の法則のそれぞれの違いを説明し、ＡＩＳＡＳの法則に、今の呉青年会議所の現状を当てはめてプレゼンをした。

鋼の広報委員会ではａｓｓｏｃｉａｔｉｖｅ（連想）をテーマに「呉青年会議所といえば、あの事業を思い浮かべてもらえる、連想してもらえる」ことを念頭に置いて事業を進めていくこと、そのためには認知段階のａｔｔｅｎｔｉｏｎ（認知）を浸透させていくことで呉青年会議所の名前を知ってもらうこと、それと同時にまちの人たちに様々な連想をしてもらったうえで事業（活動）に興味や関心を持ってもらうことができると発表した。

このように、どの様に広報活動をすれば効果的か、アイドマの法則、アイサスの法則を用いて説明し、その効果と今後の呉青年会議所の状況変化した姿を、委員会メンバーで寸劇を用いて飽きさせない様分かりやすく説明する事が出来た。また家族会員交流事業の説明と参加協力の依頼をした。

検証方法と効果：メンバーへのヒアリング

「プレゼンが熱く、気持ちがこもっていた分伝わってくるものがあった」「寸劇、データ、周辺知識とテーマ毎に雰囲気や発信方法を変えて、飽きさせない構成が練られていた」「ＪＣの認知率など広報の課題を知ることができた。」「ＪＣの認知度が低い→家族からの理解と認知が必要であるということまでが分りました。」などの意見をもらえた。

この事業を通して、事業の告知や募集活動はメンバーの協力が必要だと訴える事が出来た。

６．事業名：家族会員交流事業

日　時：２０１８年１０月１９日（金）１９：００～２０：３０

協力団体：なし

事業概要（方法）：クレイトンベイホテル１Ｆソーニョにてメンバーとその家族で懇親会を行ない、委員会の紹介や事業の紹介を行なった。

今年度行われた、謎解きをテーブルごとに解いて頂く設えや、親子の繋がり育成事業で使ったダンボールハウスやスイングカーを設置し参加した子供が楽しめる様設営した。奥様が、リラックスした雰囲気の中で食事を楽しめるように設えをする事で、子供や奥様が笑顔の溢れる家族会員事業が出来たと考える。また、各委員会の委員著と掛け合いで、委員会ごとの役割を説明した。さらに、クジで色々な家族との記念撮影を行い他の家族との交流をもつきっかけを持ってもらった。なお、撮影した写真は広報物事業にて使用した。

検証方法と効果：メンバー・参加した家族へのヒアリング

「ＪＣでどんな人達と活動しているのか分かって安心した」「子どもや奥さんが喜んでいたので良かった」などの意見もあったが、「何の為に活動しているか、もう少し知りたかった。」「何かもう一つ楽しませる仕掛けなどがあれば良かった」などの意見もあり家族に対して理解をえる難しさを痛感したが、より良い活動を行うには家族への理解と協力は必要であるとも感じた。

７．事業名：年間事業報告作成
　日　時：２０１９年３月
　協力団体：なし
①一年間の事業活動をもとにワードにて作成し、製本した。また、ＰＤＦ化したものを ホームページ上に掲載する。
②配布については、ホームページに掲載後にメンバー、特別会員、関係諸団体に案内する。
　現役会員についてはメンバーメールで、関係諸団体については事業報告書作成の案内文を郵便にて配布し、閲覧して頂いた。冊子については関係各所手交の上配布。
　検証方法と効果：年初に配布した事業計画書に基づき一年間に行った事業活動告をメンバー、特別会員、関係諸団体に広く周知することで、我々の活動を理解して頂き、次年度以降もより円滑に活動を行うことができるようになった。

委員長報告

呉ＪＣボトムアップ委員会
委員長　　藤本　健太

〔スローガン〕ボトムアップ！

今年度、「力強い呉ＪＣ」を構築するために「ボトムアップ理論」を用いて活動した。

明るい豊かな社会の実現のために、我々、呉青年会議所会員が強くならなければ、市民に対し、説得力もない団体になってしまうと考える。

そのため、研修を行い、力強いメンバーを１人でも増やすことを考えた。ただ、研修だけでは互いの表面しか見えないこともあると考え、個を集にし、「人と人との繋がり」を構築するため、交流も行うこととした。

まず、予定者段階で年間のストーリーを組立てた。個が成長しなければならないと組織変革を促し、歴史を知ることで帰属意識を高める。そして、メンバーが団体、個人と、共通認識を持ち、全メンバーが繋がると考えた。

行うこととなった事業は予定者の段階より考えていたものから派生したものであった。進んでは戻りと何度も自問自答を繰り返すことで事業確度または、理由付けが強くなったと感じる。

私見ではあるが、３月担当例会、ボトムアップ事業①に関しては、予想を大幅に上回ることが出来たと感じていた。しかし、７月に西日本豪雨災害が起きた。そのとき９月担当例会の事業計画書を作成していたが、頭の中が真っ白となった。災害を言い訳にし、考えることから逃げてしまった自分がいた。そのため、委員会スタッフ、フォロワーメンバーに対し、迷惑をかけてしまった。

この１年間、青年会議所活動で感じたことは、自分は決して１人では何もできない、ちっぽけな人間である。原副理事長、井田常任理事をはじめ、住岡副委員長、内富副委員長、平岡幹事、大田幹事、委員会メンバー等、様々な方に協力していただき、なんとか終えることが出来る。

また、呉ＪＣボトムアップ事業①では４５名出席と約半数であった出席率が、半年後の呉ＪＣボトムアップ事業②では７１名と飛躍的に向上することができた。

「人と人との繋がり」が心に染みた１年であった。また、これだけ人に感謝した年もなかったと断言できる。

事業報告

１．事業名：３月担当例会

日　時：２０１８年3月５日（月）１９：５０～２１：１３

場　所：クレイトンベイホテル　３Ｆ　天の間

協力団体：一般社団法人　ボトムアップパーソンズ協会　代表理事　畑　喜美夫氏

事業概要（方法）:『個が成長し、組織へと繋がる意識変革を図る』を目的とし、３月担当例会を行った。

外部講師に畑喜美夫氏を招き「個が成長する力を育むボトムアップ理論」と題し講演を行った。

また、委員会として初めての例会だったため、委員長挨拶で年間事業計画、想いを伝えた。

「ボトムアップ理論」を周知するため、当日のムービーをＧＩＧＡファイルにて送付し、意見を求めた。

検証方法と効果：検証方法に関しては、メンバーにヒヤリングを行った。

講師例会としたことで、例会全体がしっかりとし、話をスムースに聞いていた。

ヒヤリング結果より「ボトムアップ理論」に関しては理解していただいたと考える。

２．事業名：呉ＪＣボトムアップ事業①

日　時：２０１８年5月１９日（土）

場　所：第一部第二部　二川まちづくりセンター

第三部第四部　クレイトンベイホテル　ソーニョ

協力団体：特になし

事業概要（方法）:『メンバーがＪＡＹＣＥＥとしての素養を身につける』を目的とし、

呉ＪＣボトムアップ事業①を行った。事業として各セクションに馴染みのある題目を付けた。

第一部「なるほど！ザ・ＪＣ」

番組形式にて先輩のＪＣ経験をインタビュー動画にして上映し、委員会毎に回答してもらった。

第二部「世界一ウケたい事業」

過去に実施した呉ＪＣの事業について、当時所属していなかったメンバーがプレゼンを行う委員会対抗形式で、過去事業プレゼン大会を行った。

各チームのプレゼンが終了するごとに、他者よりプレゼン内容をより良くするための意見を出してもらい「承認」を行なってもらった。

第三部「ＪＣのごきげんよう」

人気テレビ番組のスタイルを用い、現役メンバーの実際の体験談を聴くこととした。

第四部「ポジティブ・ボトムアップタイム」

本事業の締めとして、参加者全員で肩を組み人の輪を作った。指名された人が左隣の人の良いところを言い、「承認」の場を設けた。

検証方法と効果：検証方法に関しては、メンバーにヒヤリングを行うこととした。

第一部「なるほど！ザ・ＪＣ」

実際に呉ＪＣの歴史を紡いでこられた先輩方から過去の事業等についてお話を聴ことで、より呉ＪＣ歴史に興味を持ち、ＪＡＹＣＥＥとしての素養を深めていくきっかけになった。

第二部「世界一ウケたい事業」

プレゼン担当者においては必然的に当該事業を深掘りすることになり、聴衆においても、不参加であった者においても過去事業に対する知見を深めることができ、実際に参加した者においては歴史を振り返り、語り継ぐきっかけとなった。

第三部「ＪＣのごきげんよう」

現役メンバーの実際の体験談を聴くことによって、経験を共有・追体験し、ＪＡＹＣＥＥとしての素養を高め、また、お互いをより知ることでさらに強い「人と人との繋がり」を作るきっかけとなった。

第四部「ポジティブ・ボトムアップタイム」

ポジティブな雰囲気でとにかくお互いを褒め合うことで、ポジティブな感情を増幅させ、「人と人との繋がり」を強めた。

３．事業名：９月担当例会

日　時：２０１８年9月３日（月）１９：５０～２０：４９

場　所：クレイトンベイホテル　３Ｆ　天の間

協力団体：特になし

事業概要（方法）:『メンバー間で繋がる』を目的とし９月担当例会を実施した。

ＰＰを用いて、例会の趣旨説明、３月担当例会、呉ＪＣボトムアップ事業①を振り返ることとした。

また、寸劇を用いて寸劇を用いてボランティア活動に参加したメンバーの自主自立性と承認を行った。

ポジティブボトムアップを用いてメンバー間で繋がり、空気作りをすることで今後のＪＣ活動の指針を皆に発言した。

最後に委員長挨拶を行うことで、想いを伝えた。

検証方法と効果：検証方法に関しては、メンバーにヒヤリングを行うこととした。

「ＰＰ」

本例会に至るまでの事業の振り返りをすることで、「ボトムアップ理論」を改めて認識していただくと同時に、今回の例会の趣旨を伝えることができた。

「寸劇」

例会の趣旨である自主自立性の承認を、寸劇を用いて行うことで分かりやすく伝え、ボランティアでの個人の行動を周囲に伝えることができた。

「ポジティムボトムアップ」

ポジティブボトムアップを行いボトムアップ理論で重要な空気作り

をすることで自立性を高めることが出来た。さらに肩を組んで行うことにより目に見えて繋がりを意識付けられた。また、呉青年会議所として一体感を感じることができた。

４．事業名：呉ＪＣボトムアップ事業②

日　時：２０１８年１１月２５日（日）１３：００～１８：４３

場　所：二河峡公園（広島県呉市大字荘山田村二河山）

協力団体：日本焚火学会　佐々木章　氏

事業概要（方法）:『全メンバーが繋がり仲間になる』を目的とし呉ＪＣボトムアップ事業②を行った。

全メンバーの繋がりを求め仮想委員会を作成した。また、出席率を上げることを目的とし、事業開始までにＬＩＮＥグループを作成し仮想委員会で使用した。

事業に参加できない方からは食材提供を受けるのとともに委任状を受ける形で関わってもらった。

日本焚火学会佐々木章氏を講師としてお招きし、焚火をインストラクトして頂き、仮メンバーで焚火を行った。焚火の薪を使い調理をし、懇親会を行った。

斧、鉈、石頭を使用し薪を作成した。

懇親会の中での設えとしてサイコロを用いて「ボトムアップゲーム」を実施した。

検証方法と効果：検証方法に関しては、メンバーにヒヤリングを行うこととした。

「焚火」

佐々木氏にインストラクトしてもらうことで本格的な焚き火を知

り、行うことができた。焚火という非日常的な手法で事業を行うことにより、事業開始前よりメンバーに興味を持ってもらうことができた。

「仮想委員会・調理・懇親会」

各メンバーに担当食材を振り分ける事により、事業に出席できないメンバーも食材の準備をしないと食材が欠ける。そのことから自主的に食材の準備をしてもらうことで事業に協力してもらえた。

懇親会では、非日常的な体験をすることでリラックスでき、普段とは異なる仮想委員会メンバーとゆっくり食事をし、酒を酌み交わしながら会話をすることで、互いの関係を醸成し、繋がりを持てた。

「委任状」

やむを得ない事情で、当日事業に参加できない方についても本事業に関わってもらった。ほぼ全ての欠席者が委任状提出に協力してくれた状況から、欠席者においても事業に関わろうしてくれたことを確認できた。

「ボトムアップゲーム」

サイコロで会話のテーマを決める事で話しやすくなり、また普段あまり話さないＪＣとは関係ないプライベートな話しも聞けた事で相手を知ることができ、更に深く繋がれた。

委員長報告

Ｆ－１総務委員会
委員長　　新谷　敬仁

〔スローガン〕マーシャル

Ｆ－１総務委員会の主たる役割である総会・例会の運営を１年間行った。対外に向けた事業はないが、青年会議所活動の基盤となる例会を呉青年会議所のマーシャル（Ｆ－１において現場の裏方で活動するコース係員）として１年間運営し、内部から呉青年会議所を支えることを実践した。

スローガンにも掲げた「マーシャル」たらんことを実践できるよう、毎例会、担当例会の委員会と密に連絡を取り、例会の円滑な運営ができるよう心掛けた。１００％例会は達成できなかったが、例会の出席率が１００％に近付くよう各委員会の委員長に働きかけ、出席率の向上に努め、欠席の連絡をうけたメンバーに対しては電話して出席を促すことも心掛けた。例会への出席を各委員に促しているため、当委員会自身の出席率は当然毎例会１００％でなければならない。年初の委員会の際、委員らに対してその旨を伝えて賛同を得た。その結果、当委員会は、２度の例会以外は１００％の委員会出席率となった。

総務委員長として各例会を担当させていただくこととなった時点で、例会ごとにどのような趣旨でおこなわれるのかを参加者にわかりやすく示す必要があると考えた。そこで、各例会にその例会に沿ったサブタイトルをつけることとした。これにより、参加者に対して各例会の趣旨・イメージを分かり易く表現することが出来たと思う。

年間をとおして県内１２ＬＯＭとの繋がりを感じてもらいたいと思い、毎例会において各青年会議所を紹介し、郷土料理、名産品を通じて紹介したが、取材の過程で各青年会議所の特徴などを聞く機会もあり、私自身が勉強になる機会が多々あった。

最後になりましたが、１年間委員長を全う出来たのは、原副理事長、井田常任理事のご指導があってのものだと思っております。また、つらい時にいつも笑顔で助けてくれた、廣重副委員長、久保裕之副委員長、大久保幹事、久保大乗幹事の助けのおかげだったと思います。ここに謝意を申し上げ報告とさせていただきます。

１年間ありがとうございました。

事業報告

１．事業名：総会運営

日　時：毎総会

場　所：クレイトンベイホテル

協力団体：なし

事業概要（方法）：毎総会を円滑に運営する為資料作成、会場設営、受付、司会、議事録作成を行った。定款の定めを遵守し、会員全員による呉青年会議所の最重要事項の意思決定を円滑に行えるよう総会の運営に努めた。

検証方法と効果：定款に沿って運営、実地された。

定時総会、臨時総会は、開催した全て正会員の過半数（委任状含む）をもって成立した。

総会を厳粛な雰囲気の中、定款に沿って運営することができたことで、メンバーに総会の大切さを再確認することが出来た。

２．事業名：例会運営～レギュレーション～

日　時：毎例会

場　所：クレイトンベイホテル　３Ｆ天の間

協力団体：なし

事業概要（方法）：Ｆ－１の「Ｆ」はフォーミュラ、すなわち規則・規律を意味する。基礎となるべきルールをレギュレーションといい、例会運営における規則を定め、具体的な決まりを作り毎例会時のセレモニーにおいて実践した。

また、例会食を広島県内１２ＬＯＭの事業郷土料理や名産品の入った弁当での提供とし、「手弁当」と称して毎月紹介した。月ごとに各青年会議所の基本方針、事業を紹介する紙面をＡ４用紙両面刷りにて作成した。各青年会議所の事業を紹介し他の青年会議所がどのような活動をしているのかがわかるようにすることで今後の活動に活かし、他の青年会議所との繋がりを目指した。

検証方法と効果：メンバーにヒアリングを行った。ヒアリング結果の要旨は次のとおりである。

・１００％例会が出来なかったことは残念だった。

・例会食がとてもおいしかった。

・手弁当の包み紙で他ＬＯＭがどんな活動をしているのかがわかった。

・他のＬＯＭに行ったときに、話のきっかけになった。

例会を厳粛な雰囲気の中で行い、会員の意識統一の場とすることが

出来た。

食事を通じて広島県内の青年会議所の活動を理解することが出来、青年会議所活動をより理解することが出来た。

３．事業名：１月例会（新年互礼会）～ロケットスタート～

日　時：1月１３日（土）１９：００～２１：００

場　所：クレイトンベイホテル　３Ｆ　天の間（1）（2）

協力団体：なし

事業概要（方法）：２０１８年度の呉青年会議所の理念と基本方針を行政機関、関係諸団体に伝えるため、理事長所信表明を行い、来賓、関係諸団体、特別会員に伝えた。

オープニングに２台のＦ１風マシンを作成し、会場左右に巻物状の横断幕を設置し、マシン通過により広げる演出を行い、呉青年会議所の２０１８年のロケットスタートを演出した。また、歓談中には、近年入会者の多い当会において、お招きした特別会員との交流を促し、青年会議所活動において大切なことを特別会員からも学べるよう、賀詞交換の時間を長くとり、活発な名刺交換をすることで特別会員との繋がりを作ることが出来た。

検証方法と効果：メンバーにヒアリングを行った。ヒアリング結果の要旨は次のとおりである。

・明神理事長の挨拶が身にしみた。笑顔絶やさず目標に向かって仲間と共に１年をやり切る覚悟が出来た。
・サブタイトルのロケットスタートも来賓の方全てに覚えて頂いて良かった。
・ＪＣをやってこられた先輩のお話を聞け、貴重な体験ができた。
・今まで話す機会がなかった先輩方とお話をさせて頂き、講座の話も頂け自分にとって次のステップに進めた貴重な時間だった。

来賓の方からも２０１８年度呉青年会議所のロケットスタート感を感じたとご挨拶の際におっしゃっていただき、４０歳までの若い年代の勢いを伝えることが出来た互礼会となった。

賀詞交換の時間を多くとることで、特別会員との交流が例年より活発に行え、特別会員の現役時代の事業内容や活動に対する思いなどを、例年よりも多く伺うことが出来た。近年入会者が多い呉青年会議所は、特別会員との繋がりを多くすることで経験不足な面を補うことが出来ると感じた。

４．事業名：２月例会～テイルトゥノーズ～
　　日　時：２月５日（月）１９：５０～２０：１０
　　場　所：クレイトンベイホテル　３Ｆ　天の間
　　協力団体：なし

事業概要（方法）：委員会メンバーによる当委員会の委員会基本方針、年間事業計画のプレゼンテーションを行い全メンバーに例会への出席と当委員会への協力の要請を行った。

検証方法と効果：メンバーへのヒアリングを行った。ヒアリング結果の要旨は次のとおりである。

・県内１２ＬＯＭの特産品、各理事長の所信などを食事の時間に見ることができて感じるのは出向でブロック協議会に出ていない会員には非常にいいと思う。

・Ｆ－１を使って個性のあるパワポでおもしろかった。

・例会の食事が大竹の名物で今までの例会の食事と違って新鮮だった。次回の例会での食事が楽しみ。

本年度の１２回の例会食について、県内１２ＬＯＭの郷土料理・食材を使うことを説明し、毎例会楽しみに出席してもらう設営を行うことをメンバーに周知することが出来た。

また、例会に出席し、メンバー同士で青年会議所活動の意識統一をすることが、青年会議所活動を行う上で大事なことであることをメンバーに伝える事が出来た。

当委員会の基本方針・年間事業計画をメンバーに伝える事が出来た。

５．事業名：６月例会（高知合同例会）～サイドバイサイド～

日　時：６月１６日（土）１９：００～２１：１６

場　所：シティプラザすぎや　４Ｆ　瑞雲

協力団体：高知青年会議所

事業概要（方法）：高知青年会議所と呉青年会議所が互いを高め合うためのライバルであると捉え、その切磋琢磨する様子をサイドバイサイド（２台のＦ－１カーが抜きつ抜かれつして並走することを指す）と表現し、例会中でサイドバイサイド感を演出した。

オープニング動画では呉と高知を交互に紹介し、両青年会議所が交

互に理事長挨拶、特別会員会挨拶、監事講評を行った。
懇親会では、呉の海自カレー、肉じゃが、細うどんを堪能してもらい、両青年会議所メンバーとの交流を活発に行い、親交を深めた。
呉と高知青年会議所メンバーで合同バンドを組み、「呉ＩＮ－呉ＩＮ」を演奏し、大いに盛り上がった。
翌日は、呉地方総監部、海上ツアーのエクスカーションを行った。

検証方法と効果：呉青年会議所、高知青年会議所メンバーにヒアリングを行った。ヒアリング結果の要旨は次のとおりである。

呉　・高知側のＦ－１好きの部分を上手く突いた、冒頭のムービーなど、例会構成が非常に良かった。
・バンドが盛り上がった。すごくカッコよかったです。
・高知の方といろんなお話が出来て為になりました。

高知・セレモニー等いろいろなところでサイドバイサイドの工夫があって良かった。
・エクスカーションの見学も素晴らしかったし呉の名物も全てご馳走になりました。

兄弟ＪＣである公益社団法人高知青年会議所と合同例会を行い、互いに親交を深め、今後の青年会議所活動に互いに良い影響を及ぼすことが出来た例会となった。合同バンドで密に連絡を取ることで意見を言い、お互いを理解することが出来たと思う。合同で何かをすることで互いを理解することが出来、信頼につながると感じた

６．事業名：１１月例会（創立記念日例会）～レコードライン～

日　時：１１月１０日（土）１９：００～２１：００

場　所：クレイトンベイホテル　３Ｆ　天の間

協力団体：なし

事業概要（方法）：創立記念日例会の目的、「公益社団法人呉青年会議所の創立以来の歴史を振り返ることで当団体の理念を再認識し、今後のより高度な地域貢献活動の実現に資する」を達成させるため、呉青年会議所の昭和～平成～本年度の事業等の動画を作成し、歴史を振り返った。会場入り口に過去の写真を張り付けたウェルカムボードを設置し、出席なされる特別会員が現役時代をより思い出せるよう席札に現役時代の事業の写真を使用し制作した。

検証方法と効果：メンバーにヒアリングを行った。ヒアリング結果の要旨は次のとおりである。

・ＯＢの写真は素敵だと思った。昔を思い出していただき、昔話に花が咲く設えだった。

・ＯＢの方々がご自身の席札を持って帰っておられたので、本当に気に入っていただけた設えだと感じた。特別会員の皆様も昔を懐かしがられ笑顔の絶えない創立記念日例会だったと思う。

・オープニング動画がかっこよかった。レコードライン感がとてもよく出ていた。

呉青年会議所が、あるべき道を進んでいること、また、素晴らしい歴史・記録（レコード）を有しているという意味をＦ－１用語であるレコードライン（理想的な走行ラインの意味）という言葉に込め、標記のとおり題した。呉青年会議所のレコード（記録）を参加者全員が感じることのできた例会となった。特別会員の皆さまにはご自身の現役時代の写真を見ることで、現役時代を思い出していただき、現役メンバーに対して自身の現役時代の事業や苦労などを語っていただくことが出来た。現役メンバーにとっては、特別会員から直接事業を行う上での苦労を語っていただき、今後の活動に役立てる貴重な時間となった。

７．事業名：１２月第１例会（次年度担当例会）

日　時：１２月３日（月）１９：００～２１：００

場　所：クレイトンベイホテル　３Ｆ　天の間

協力団体：なし

事業概要（方法）：２０１９年度の基本方針をメンバー全員で理解し、共有することで今後の地域貢献活動を展開するうえで、いち早く次年度に対する地域貢献活動に意識を向上させるため執り行った。

前半のセレモニー部分を本年度総務委員会が執り行い、後半の担当例会部分を次年度総務委員会が行った。次年度理事長による基本方針の説明、次年度理事役員紹介を行い、委員会紹介を行った。

検証方法と効果：次年度のスローガン・基本方針をメンバー全員で共有することが出来た。

次年度委員長による委員会紹介では次年度委員会メンバーと委員会の特色をいかした紹介で次年度の呉青年会議所を先頭に立って導く理事役員のやる気がメンバー全員に伝わる内容となった。

８．事業名：１２月第２例会（納会・卒業式・卒業送別会）～チェッカーフラッグ・グランドフィナーレ～

日　時：１２月１５日（土）１８：００～２１：１０

場　所：クレイトンベイホテル　３Ｆ　琥珀の間・天の間

協力団体：なし

事業概要（方法）：卒業式では卒業生６名の功績をたたえるため、厳粛な雰囲気の中、琥珀の間で執り行った。卒業生に対してこれまでの青年会議所活動に対する感謝状を贈り、卒業生一人一人から一言頂いたのち、卒業生代表者から送辞を頂き、答辞朗読を行った。

納会は、本年度の青年会議所活動を理事長総括スピーチにより総括し、本年度の事業の報告と検証が行われた。その後次年度理事長にプレジデンシャルリースを引き継ぎ、専務理事によるＪＣ旗引継ぎ・次年度理事長挨拶を行った後、次年度理事役員紹介を行った。

卒業送別会では、Ｆ－１風マシンを使い、卒業生入場の際、チェッカーフラッグを受けていただき、歓談中に青年会議所活動の最後の思いを壇上で語ってもらった。

検証方法と効果：メンバーにヒアリングを行った。ヒアリング結果の要旨は次のとおりである。

・卒業式の厳粛さに驚いた。

・納会での理事長総括でいろいろあった今年の活動が終わったと思えた。

・卒業送別会のＦ－１風マシンのクオリティに驚いた。

卒業式の厳粛さが保たれ、卒業生の青年会議所活動の功績を讃えることが出来た。送辞の時に卒業生の呉青年会議所へのいろいろな思いが伝わり現役メンバーとしても卒業生の思いに答えるため今後も精進し公益活動に邁進していこうという思いが高まった。

理事長総括スピーチにて本年度をやり切ったと確信しつつ、次年度の青年会議所活動は、さらに高度なものとなるよう、一層メンバー一丸とならなければならないと思った。

卒業送別会の入場にＦ－１風マシンを使用し、チェッカーフラッグを受けていただいたシーンはとても盛り上がり、卒業生からも忘れられない卒業式となったとのご感想をいただいた。

公益社団法人 呉青年会議所　12月第2例会
卒　業　式

公益社団法人 呉青年会議所　12月第2例会　懇会
卒業送別会

議長報告

拡大・アカデミー特別会議
議長　　井本　成一

２０１８年度、アカデミー委員会は特別会議体として、副理事長が議長を兼任する形で、また、フォロアーメンバーに副理事長と常任理事を迎え活動を行いました。特別会議を設置した背景は、この数年間で会員数は大幅に増加しましたが、全体の会員数からみると近年入会者の占める割合は大きく、今後の組織づくりという点ではまだまだ不安も大きいため、経験豊富な理事メンバーを中心に通常のアカデミー委員会とは違う形で育成に取り組むためです。

まずは、会員拡大目標を２０名とし、メンバー全員で会員拡大を行うため、各委員会において候補者を挙げて頂き、それぞれの委員会と当会議が連携を行いながら、募集活動を展開しました。また、入会候補者面接も１１月まで開催し、１年間を通じて会員拡大へのモチベーション維持に努めました。結果として、３月までに１５名の仮入会員を獲得しました。

そして、セミナーや担当例会へ向けた仮入会員会議を重ねる中で、全てに共通して「同期の絆」をキーワードとして活動を行いました。半年間という限られたインターン期間の中で、苦悩や喜びをどれだけ仮入会員同士で共有するかが「同期の絆」を育むたの要素であると考えていましたが、当会議が課した課題に対して、仮入会員が主体となり大変積極的に取り組んで頂きました。そして、我々の新たな仲間が１０名誕生しました。この頼もしい１０名が今後益々成長し、将来の呉青年会議所の基盤となることを期待します。

また、１１月までに１名の仮入会員を獲得し２０１９年度へ引き継ぐことができました。全体の目標達成率は８０％となりましたが、質の高い正会員、そして仮入会員を獲得することができたと考えます。

事業報告

１．事業名：入会候補者面接

日　時：第１回　２０１８年　１月２２日（月）１８：００～１８：３０
第２回　２０１８年　２月１９日（月）１８：００～１８：３０
第３回　２０１８年　２月２６日（月）１８：００～１８：３０
第４回　２０１８年　３月１９日（月）１８：００～１８：３０
第５回　２０１８年　３月２６日（月）１８：００～１８：４５
第６回　２０１８年　３月２８日（水）１９：００～１９：２０（臨時）
第７回　２０１８年　４月　２日（月）１８：００～１８：３０（臨時）
第８回　２０１８年１１月２６日（月）１８：００～１８：３０

場　所：クレイトンベイホテル
井本建設株式会社　会議室

協力団体：なし

事業概要（方法）：　入会候補者に対する面接を実施した。
候補者１人につき、スポンサーによる紹介、入会候補者による３分間スピーチ（テーマは自由とし、自己紹介を含めたもの）、および審査委員による質疑応答を２問ずつ行った。

検証方法と効果：　現役会員へヒアリングを行い、意見を集めた。その中で、回数を分けた少人数開催により緊張感あふれる雰囲気を作り出し、厳粛な雰囲気の中で入会候補者の入会適格性の審査を行うことができたという意見もあったが、反面、現役会員への参加負担が増え、参加者が少ない時があったとの意見もあった。入会候補者にとって、面接回数が多くあることは都合が良いことであるが、現役会員への負担やモチベーションの維持を考えた場合、回数の精査が必要であると考える。

次に、回数を分けて行うことにより短時間開催となったため、長時間開催による会場雰囲気の中だるみが無かった。また、入会候補者に日程を選んで頂けることで、日程不都合による面接拒否を免れることができた。そして、１回における面接者数が少なかったため、１人に対する質疑応答に対し時間をかけることができた。

よって、事業目的である「入会候補者が呉青年会議所に相応しい品格のある青年であるかを問う」については、達成できたと考える。

２．事業名：２月担当例会

日　時：２０１８年2月５日（月）２０：３０～２０：５０

場　所：クレイトンベイホテル

協力団体：なし

事業概要（方法）：　２０１８年度アカデミー特別会議についての説明、並びに２０１８年度アカデミーの活動についての説明を行った。

検証方法と効果：　現役会員へヒアリングを行い、意見を集めた。拡大・アカデミー特別会議が何故特別会議なのか、何故従来の委員会形式ではないのかを伝える事が出来た。また、メンバーに会員拡大の重要性、メンバー全員で拡大活動に取り組んでいくという事を伝える事が出来た。

３．事業名：仮入会員セミナーⅠ　醸成の部

日　時：４月２１日（土）１６：００～４月２２日（日）１５：３５

場　所：県立県民の浜・輝きの館

協力団体：日本ＪＣ公認トレーナー和田真規子氏、天木正史氏

事業概要（方法）：１泊２日のセミナーを実施した。

【１日目】親睦系プログラムの実施

開会式終了後、仮入会員は３グループに分かれてコテージ内にて大和カレイライスを調理した。なお、レシピは配布しているが、香辛料の調合は仮入会員にて話し合う。現役会員は、その調理過程を見守ることとした。カレイライス作りという共通した目的に向けた作業をすることで、多くの意見交換をしながら、仮入会員同士の親睦を深めてもらい、同期の絆を醸成する第１歩とした。

大和カレイライス完成後、大懇親会にて仮入会員は自己紹介を行うとともに、調理したカレイライスのＰＲも行った。そして、仮入会員向けに呉青年会議所の説明として、委員会ごとにＰＲを行った。仮入会員は、そのＰＲを見た上で居酒屋の青春において参加を希望する委員会を決めた。

大懇親会終了後、ラインごとに３つのコテージに分かれ、仮入会員を迎え居酒屋の青春を開催した。膝を突き合わせ語り合う中で、訪問した先の委員会について理解を深めるとともに現役会員と親睦を深めた。

【２日目】知力系プログラム、体力系プログラムの実施

知力系プログラムⅠとして、青年会議所の基礎知識について、現役会員が説明を行った。ここでは、呉を含む青年会議所の歴史、基礎知識を説明し、仮入会員は青年会議所がどのような団体かを学んだ。また、２０１６年に同じ場所において実施した事業を紹介することにより、仮入会員に具体的な事業イメージを持ってもらった。

次に、知力系プログラムⅡでは、日本ＪＣ公認トレーナー並びにアシスタントトレーナーをお招きし、日本ＪＣ公認プログラムであるＪＣゲームを行った。今後ＪＣ活動をいていく上で経験する様々な「体験」や「気づき」を事前に見聞きすることで興味を喚起しきゆき、現役会員はこれまでの経験を、ＪＣゲームのロジックの中で確認することができた。

昼食後、体力系プログラムとして専門的能力を必要とせず誰もが行うことができるフットベースボールを行った。仮入会員が１

つのチームとなり、全員が同じ志をもって挑戦・協力し、仮入会員同士の絆を醸成する過程においての仕上げとした。

検証方法と効果：　仮入会員並びに現役会員へヒアリングを行い、意見を集めた。４月例会で顔を合わせた後、仮入会員同士が会うのは２回目である。よって、一気に全員と絆を醸成することは難しいと判断したため、セミナー開始直後は小さなグルーピングでの親睦から始め、それを徐々に広げてゆき、最後は仮入会員が一致団結でき、事業目的である「青年会議所の概要並びに基礎知識の習得並びに仮入会員同士のつながり、協力心、絆の醸成」は達成できたと考える。仮入会員全員の参加が叶わなかったことが残念ではあるが、参加した仮入会員同士の絆は確実に醸成されたと考える。また、現役会員とのかかわりも居酒屋の青春や、ＪＣゲームにおいて少人数でのグルーピングを行うことで、積極的な会話を生み出すことができた。このセミナーを通じて、現役会員や仮入会員を含め参加者全員が、様々な会話の中で多くの刺激を受けた。

４．事業名：仮入会員セミナーⅡ　醸成の部

日　時：２０１８年7月７日（土）１４：００～　7月８日（日）１３：００

両日とも、豪雨災害のため中止。

場　所： 桂浜温泉館、倉橋町火山、倉橋まちづくりセンター、シーサイド桂ケ浜荘を予定

協力団体：なし

事業概要（方法）：　事業は豪雨災害のため、中止とした。代替えとして、７月理事会に仮想事業計画議案を上程した。

検証方法と効果：　仮入会員並びに現役会員へヒアリングを行い、意見を集めた。当初、セミナー内において仮想理事会を開催する予定であったが、本番の理事会にオブザーブ参加することとなり、この点に関しては模擬以上の効果があったと考える。理事会においては、仮想事業計画議案に対し多くの意見や質問を頂き、仮入会員にとって大きな気付きと学びがあった。

５．事業名：１０月担当例会

日　時：２０１８年１０月１日（月）１９：５０～２０：５０

場　所：クレイトンベイホテル

協力団体：なし

事業概要（方法）：　インターン期間に実施した、全１７回に及ぶ仮入会員会議の成果である、仮想事業についてのプレゼンを行った。プレゼンはパワーポイントを中心に行い、寸劇も取り入れて聴衆を飽きさせない設えが多く施されていた。その後、理事長から新入会員にＪＣバッジの授与を行い、新入会員それぞれにエールを送った。また、２０１８年度仮入会員会会長の槙岡達也君が決意表明を行い、正会員になるにあたっての抱負を述べた。ここに、新たな仲間が１０名誕生した。

検証方法と効果：　現役会員へヒアリングを行い、意見を集めた。仮想事業計画自体は、多少粗削りな部分もあったが、担当例会の中では、新入会員１人ひとりの成長を見ることが出来たと共に、プレゼン方法や新入会員の姿勢は、現役会員に大きな影響を与えることができたと考える。ヒアリングの中でも、新入会員の担当例会を行うにあたっての取り組み姿勢、また、新入会員個々のポテンシャルについて評価が高い。また、プレゼンを通じて、インターン期間中に培ったつながりを伝えることができ、現役会員は新入会員が新しい仲間であると認識のではないかと考える。さらに、プレゼン終了後、正会員の証であるＪＣバッジを付けることにより、新入会員のＪＡＹＣＥＥとしての意識がさらに高まった。彼らが、今後さらに飛躍することを期待する。

JCI

輝く明日を創り出す

出向理事報告

出向理事　　海生　圭亮

２０１８年度、公益社団法人日本青年会議所中国地区広島ブロック協議会へ経済再生グループ強い地域創造委員会の委員長として出向しました。当委員会は、強い地域へと発展するための基盤を構築することを目的とした産官学連携の推進事業。スポーツを通じて協調性を持った人材の育成を目的としたＪＣカップＵ－１１少年少女サッカー全国大会広島ブロック予選大会の実施。公益社団法人日本青年会議所と連携し災害大国日本において近年重要事項となっている災害支援ネットワーク構築という３つの事業を担っておりました。

はじめに、地域の将来を担う少年少女達が、サッカーという多くの仲間と共に協力し、競うあうスポーツを通じて、相手を思いやれる大きな心と強い精神力を身に着けるだけでなく、仲間と共に協力し合う事、健全な心身の醸成、人材の育成を目的に、ＪＣカップＵ－１１少年少女サッカー全国大会広島ブロック予選大会を実施いたしました。他地域との交流、またグッドルーザーの精神を実践していただく事をテーマとしアンケートを集計した結果、９０％以上の子供たちからグッドルーザーの精神を伝えるプログラムを通じて他地域との交流がとれ満足しているとの回答をいただきました。このグッドルーザーのプログラムを行ったことにより、スポーツを通じて勝負に負けても相手を称えることのできる心が養われ、事業目的の心の豊かな人材が育成できたと考えます。

次に産官学連携の推進事業ですが、地元企業と教育機関が互いの強みを活かし、これから先の時代を見据えた新たなビジネスやそのモデルケースを創出し、今後の経済成長と雇用誘発など、地域活性化を促すために、産官学連携事業の情報や関連企業窓口などを発信し推進ことを目的とし、特設ホームページの設置、また広島ブロック大会たからいちでのブース出展による推進運動を予定しておりました。推進運動のメインであるたからいちブース出展の為、事前に広島ブロック協議会ホームページ内に県内の産官学連携の事例を掲載した特設ページを設けました。しかし、７月の豪雨災害を受け広島ブロック大会たからいちが中止となり、急きょ他イベントへの出展参加を検討・問い合わせましたが、時間の都合上実施が叶いませんでした。しかし、広島ブロック協議会産官学連携特設ページへも多数のアクセスをいただき、これからの時代を見据えた新たなビジネスやそのモデルケースを創出に向けた一助とすることができました。

公益社団法人日本青年会議所と各地ブロック協議会が連携する予定であった災害支援ネットワークの構築に関しては年内でのシステムの構築が間に合いませんでしたが、素早い情報収集と正確な情報の配信ができるよう引き続き継続される予定となっております。

最後に、広島ブロック協議会の運動に対し、呉青年会議所の皆様には深いご理解と多大なるご協力を頂き大変感謝しております。また広島ブロック協議会委員長という貴重な経験をさせて頂き多くの学びと仲間を得ることができました。誠にありがとうございました。

JCI™
Junior Chamber International Kure

公益社団法人　呉青年会議所
事務局／〒737−0045　呉市本通4丁目8番12号
呉商工会議所ビル南館内7F−704
TEL (0823) 21−1081　FAX (0823) 21−0800
https://www.kure-jc.or.jp/
e-mail info@kure-jc.or.jp

公益社団法人　呉青年会議所

会計報告書

自　　2018年1月1日
至　　2018年12月31日

【呉青年会議所】

貸 借 対 照 表

2018年12月31日現在

（単位：円）

科目	当年度	前年度	増減
Ⅰ 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	1,044,887	1,467,697	-422,810
未収金	2,285,489	1,499,182	786,307
△貸倒引当金	90,000		90,000
流動資産合計	3,240,376	2,966,879	273,497
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
周年事業積立資産	3,150,000	3,150,000	0
退職給付引当資産	2,256,000	2,202,000	54,000
特定資産合計	5,406,000	5,352,000	54,000
固定資産合計	5,406,000	5,352,000	54,000
資産合計	8,646,376	8,318,879	327,497
Ⅱ 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	30,000	21,000	9,000
預り金	1,179,076	897,501	281,575
流動負債合計	1,209,076	918,501	290,575
2. 固定負債			
退職給付引当金	2,256,000	2,202,000	54,000
固定負債合計	2,256,000	2,202,000	54,000
負債合計	3,465,076	3,120,501	344,575
Ⅲ 正味財産の部			
1. 指定正味財産	0	0	0
（うち基本財産への充当額）	(0)	(0)	(0)
（うち特定資産への充当額）	(0)	(0)	(0)
2. 一般正味財産	5,181,300	5,198,378	-17,078
（うち基本財産への充当額）	(0)	(0)	(0)
（うち特定資産への充当額）	(3,150,000)	(3,150,000)	(0)
正味財産合計	5,181,300	5,198,378	-17,078
負債及び正味財産合計	8,646,376	8,318,879	327,497

【呉青年会議所】

正味財産増減計算書

2018年1月1日から2018年12月31日まで

（単位：円）

勘定科目	本年度決算	前年度決算	増減
Ⅰ．一般正味財産増減の部			
1．経常増減の部			
（1）経常収益			
基本財産運用益	(0)	(0)	(0)
基本財産受取利息	0	0	0
受取入会金	(1,275,000)	(1,650,000)	(-375,000)
受取入会金	1,275,000	1,650,000	-375,000
受取会費	(14,580,000)	(14,750,000)	(-170,000)
普通会員受取会費	10,275,000	10,475,000	-200,000
特別会員受取会費	4,305,000	4,275,000	30,000
事業収益	(0)	(844,187)	(-844,187)
登録料収入	0	844,187	-844,187
受取補助金等	(400,000)	(400,000)	(0)
補助金収入	400,000	400,000	0
受取寄付金	(0)	(0)	(0)
寄付金収入	0	0	0
雑収益	(428,166)	(551,467)	(-123,301)
受取利息	318	1,765	-1,447
雑収入	427,848	549,702	-121,854
経常収益計	(16,683,166)	(18,195,654)	(-1,512,488)
（2）経常費用			
事業費	(11,398,637)	(20,007,738)	(-8,609,101)
給与手当	1,546,668	1,561,398	-14,730
福利厚生費	537,592	429,604	107,988
旅費交通費	0	14,976	-14,976
通信運搬費	132,737	195,891	-63,154
消耗品費	1,577,721	1,354,677	223,044
印刷製本費	1,806,214	2,029,259	-223,045
燃料費	0	0	0
光熱水料費	57,639	58,606	-967
賃借料	685,128	667,875	17,253
保険料	22,500	112,200	-89,700
諸謝金	1,100,279	8,459,264	-7,358,985
支払助成金	250,000	250,000	0
委託費	991,578	1,344,156	-352,578
会場費	784,360	1,572,627	-788,267
レンタル料	1,084,221	533,520	550,701
記念品費	244,800	652,690	-407,890
広告費	485,400	679,195	-193,795
清掃費	64,800	64,800	0
退職積立繰入額	27,000	27,000	0
雑費	0	0	0

【呉青年会議所】

正味財産増減計算書

2018年1月1日から2018年12月31日まで

(単位:円)

勘定科目	本年度決算	前年度決算	増減
管理費	(5,136,607)	(5,148,775)	-12,168
給与手当	1,546,668	1,561,397	-14,729
福利厚生費	269,003	267,303	1,700
会議費	11,880	28,340	-16,460
通信運搬費	365,071	355,108	9,963
消耗品費	224,229	255,987	-31,758
印刷製本費	90,374	64,627	25,747
光熱水料費	57,639	52,125	5,514
賃借料	665,688	665,688	0
諸謝金	193,800	248,424	-54,624
租税公課	21,000	21,000	0
支払手数料	195,594	195,346	248
清掃費	64,800	64,800	0
図書費	205,500	209,750	-4,250
諸会費	1,045,652	946,210	99,442
退職積立繰入額	27,000	27,000	0
貸倒引当金繰入額	90,000	60,000	30,000
雑費	62,709	125,670	-62,961
経常費用計	(16,535,244)	(25,156,513)	(-8,621,269)
評価損益等調整前当期経常増減額	【 147,922 】	【 -6,960,859 】	【 7,108,781 】
評価損益等計	(0)	(0)	(0)
当期経常増減額	【 147,922 】	【 -6,960,859 】	【 7,108,781 】
2．経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
貸倒引当金戻入額	60,000		
経常外収益計	(60,000)	(0)	(60,000)
(2) 経常外費用			
会費等回収不能額	225,000	749,966	-524,966
経常外費用計	(225,000)	(749,966)	(-524,966)
当期経常外損益増減額	【 -165,000 】	【 -749,966 】	【 584,966 】
指定正味財産からの振替額	(0)	(0)	(0)
当期一般正味財産増減額	【 -17,078 】	【 -7,710,825 】	【 7,693,747 】
一般正味財産期首残高	5,198,378	12,909,203	-7,710,825
一般正味財産期末残高	5,181,300	5,198,378	-17,078
Ⅱ．指定正味財産増減の部			
特定財産運用益			
預金利息収入	(0)	(0)	(0)
一般正味財産への振替額	(0)	(0)	(0)
当期指定正味財産増減額	【 0 】	【 0 】	【 0 】
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
Ⅲ．正味財産期末残高	【 5,181,300 】	【 5,198,378 】	【 -17,078 】

【呉青年会議所】

正味財産増減計算書内訳表

2018年1月1日から2018年12月31日まで

(単位：円)

科目	公益目的事業等会計			収益事業等会計			法人会計	内部取引消去	合計
	公1	共通	小計	他1	共通	小計			
Ⅰ．一般正味財産増減の部									
1．経常増減の部									
（1）経常収益									
①基本財産運用益	(0)		(0)	(0)		(0)	(0)		(0)
基本財産受取利息			0			0	0		0
②受取入会金	(1,275,000)		(1,275,000)	(0)		(0)	(0)		(1,275,000)
受取入会金	1,275,000		1,275,000			0	0		1,275,000
③受取会費	(7,290,000)		(7,290,000)	(2,315,040)		(2,315,040)	(4,974,960)		(14,580,000)
普通会員受取会費	5,137,500		5,137,500	1,631,409		1,631,409	3,506,091		10,275,000
特別会員受取会費	2,152,500		2,152,500	683,631		683,631	1,468,869		4,305,000
④事業収益	(0)		(0)	(0)		(0)	(0)		(0)
登録料収入	0		0	0		0	0		0
⑤受取補助金等	(400,000)		(400,000)	(0)		(0)	(0)		(400,000)
補助金収入	400,000		400,000			0	0		400,000
⑥受取寄付金	(0)		(0)	(0)		(0)	(0)		(0)
寄付金収入	0		0			0	0		0
⑦雑収益	(0)		(0)	(0)		(0)	(428,166)		(428,166)
受取利息			0			0	318		318
その他収益			0			0	427,848		427,848
経常収益計	8,965,000	0	8,965,000	2,315,040	0	2,315,040	5,403,126	0	16,683,166
（2）経常費用									0
事業費	(9,083,597)		(9,083,597)	(2,315,040)		(2,315,040)			(11,398,637)
給与手当	1,546,668		1,546,668			0			1,546,668
福利厚生費	269,003		269,003	268,589		268,589			537,592
旅費交通費	0		0			0			0
通信運搬費	92,498		92,498	40,239		40,239			132,737
消耗品費	1,347,079		1,347,079	230,642		230,642			1,577,721
印刷製本費	922,154		922,154	884,060		884,060			1,806,214
燃料費	0		0			0			0
光熱水料費	57,639		57,639			0			57,639
賃借料	665,688		665,688	19,440		19,440			685,128
保険料	22,500		22,500			0			22,500
諸謝金	934,279		934,279	166,000		166,000			1,100,279
租税公課			0			0			0
支払助成金	250,000		250,000			0			250,000
委託費	893,160		893,160	98,418		98,418			991,578
会場費	369,020		369,020	415,340		415,340			784,360
レンタル料	986,709		986,709	97,512		97,512			1,084,221
記念品費	150,000		150,000	94,800		94,800			244,800
広告費	485,400		485,400			0			485,400
清掃費	64,800		64,800			0			64,800
退職積立繰入額	27,000		27,000			0			27,000
雑費			0	0		0			0
管理費	( )		( )	( )		( )	(5,136,607)		(5,136,607)
給与手当							1,546,668		1,546,668
福利厚生費							269,003		269,003
会議費							11,880		11,880
旅費交通費									0
通信運搬費							365,071		365,071
消耗品費							224,229		224,229
修繕費									0
印刷製本費							90,374		90,374
燃料費									0
光熱水料費							57,639		57,639
賃借料							665,688		665,688
保険料									0
謝礼金							193,800		193,800
租税公課							21,000		21,000
支払手数料							195,594		195,594
清掃費							64,800		64,800
図書費							205,500		205,500
諸会費							1,045,652		1,045,652
退職積立繰入額							27,000		27,000
貸倒引当金繰入額							90,000		90,000
雑費							62,709		62,709
経常費用計	9,083,597	0	9,083,597	2,315,040	0	2,315,040	5,136,607	0	16,535,244
当期経常増減額	-118,597	0	-118,597	0	0	0	266,519	0	147,922
2．経常外増減の部									0
（1）経常外収益							60,000		60,000
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	60,000	0	60,000
（2）経常外費用									0
会費等回収不能額				0			225,000		225,000
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	225,000	0	225,000
当期経常外損益増減額	0		0	0		0	-165,000		-165,000
指定正味財産からの振替			0			0			0
他会計振替額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	-118,597	0	-118,597	0	0	0	101,519	0	-17,078
一般正味財産期首残高	-822,048		-822,048	0		0	6,020,426		5,198,378
一般正味財産期末残高	-940,645		-940,645	0		0	6,121,945		5,181,300
Ⅱ．指定正味財産増減の部									0
一般正味財産への振替			0						0
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高			0			0	0		0
指定正味財産期末残高	0		0	0		0	0		0
Ⅲ．正味財産期末残高	-940,645		-940,645	0		0	6,121,945		5,181,300

財務諸表に対する注記

Ⅰ 特定資産の増減額及びその残高
特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

（単位：円）

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
【特定資産】				
周年事業積立資産	3,150,000	1,275,680	1,275,680	3,150,000
退職給付引当資産	2,202,000	54,000	0	2,256,000
合計	5,352,000	1,329,680	1,275,680	5,406,000

特定資産の財源の内訳
特定資産の財源の内訳は、次のとおりである。

（単位：円）

科目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
【特定資産】				
周年事業積立資産	3,150,000	—	3,150,000	—
退職給付引当資産	2,256,000	—	—	2,256,000
合計	5,406,000	—	3,150,000	2,256,000

Ⅱ 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高
補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は次のとおりである。

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額
受取市補助金	呉市	0	400,000	400,000
合計		0	400,000	400,000

Ⅲ その他
・未収会費の回収不能額の計上については、3ヶ年を超えて支払請求を通知したにもかかわらず、支払意思の表示が全く確認されないものを計上処理している。

附属明細書

Ⅰ　基本財産及び特定資産の明細
注記に記載しているため、省略する。

Ⅱ　引当金の明細

（単位：円）

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
退職給付引当金	2,202,000	54,000	0	0	2,256,000

財産目録

2018年12月31日現在

（単位：円）

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
（流動資産）	現金	手元保管	運転資金として	345,104
	預金	【普通預金】		
		呉信用金庫本店営業部	No0456381；運転資金として	7,077
		呉信用金庫本店営業部	No1011799；運転資金として	580,354
		もみじ銀行呉営業部	No2248674；運転資金として	63,202
		広島銀行呉支店	No0599404；運転資金として	49,150
			〈現金・預金計〉	1,044,887
	未収金	現役会員19名 特別会員12名	当会計期間内に会員が納入すべき会費・入会金の未収分である	2,285,489
		貸倒引当金		△ 90,000
			〈未収金計〉	2,195,489
流動資産合計				**3,240,376**
（固定資産） 特定資産	周年事業積立資産	【普通預金】		
		呉信用金庫本店営業部	No1039248 周年事業の積立資金として管理している	3,150,000
	退職給付引当資産	【定期預金】		
		広島銀行呉支店	No3045298 職員退職給付の引当資産として管理している	2,256,000
			〈特定資産計〉	5,406,000
固定資産合計			*うち特定資産*	5,406,000
資産合計				**8,646,376**
（流動負債）	未払金	㈲空本印刷所	2018年度事業報告書作成費	28,032
		日本郵便	2018年度事業報告書郵送代	1,968
	預り金	現役会員	普通会員個人が負担すべき例会食事代及び登録料等の支払いのための預り金である	988,852
		社会保険料・源泉所得税・市民税		190,224
			〈未払金・預り金計〉	1,209,076
流動負債合計				**1,209,076**
（固定負債）	退職給付引当金	職員分	【退職給付引当金】 公益目的事業及び管理目的の業務に従事する職員の退職給付金	2,256,000
			〈退職給付引当金計〉	2,256,000
固定負債合計				**2,256,000**
負債合計				**3,465,076**
正味財産				**5,181,300**

監査報告書

公益社団法人　呉青年会議所
理事長　　明神　政之　　殿

2019年1月24日

公益社団法人　呉青年会議所

監事　赤谷知明

監事　盛谷剛

私たち監事は、2018年1月1日から2018年12月31日までの事業年度の理事の職務の執行を監査しました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

1 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備を努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決済資料等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該年度に係る事業報告について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその付属明細書並びに財産目録について検討いたしました。

2 監査意見

(1) 事業報告等の監査結果

一、事業報告は法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。

二、理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録の監査結果計算書類は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。

監査報告書

公益社団法人 呉青年会議所
理事長　　明神　政之　　殿

2019年1月24日

広島県呉市中通2丁目4番14号

武安会計事務所
監査人・税理士　武安紘二

上記、公益社団法人呉青年会議所2018年度収支決算報告書に関して本職は補助者2名をもって、公益社団法人呉青年会議所会計全般における現金の実査、預貯金の残高確認、諸帳簿の記帳確認、証憑書類、関係書類の照合確認等監査致しました結果、すべて適正・適法に処理が為されて且つ上記のとおり正当に表示されていることを認めます。